

第七十四回  
帝國議會  
貴族院

# 兵役法中改正法律案特別委員會會議事速記録第六號

(一九)

昭和十四年二月三日(金曜日)午前十時十分開會

○委員長(伯爵壽口直亮君) ソレデハ只今ヨリ委員會ヲ開催致シマス、昨日ニ引續キマシテ御質問ヲ願ヒマス

○政府委員(中村明人君) 昨日ノ野村子爵

ノ御質疑ニ對シマスル答解ヲ致シマス、昨日ノ御意見ニ對シマシテハ、文部當局トモ協議ヲ致シマシテ私カラ御答辯ヲ申上ゲマス、我が陸軍ノ選兵ハ、身長ニ關シマシテハ兵業遂行上ノ經驗及必要カラ「メートル」六十以上ノ者ヲ充當スル如ク定メテアリマスルコトハ、今迄再三申上ゲタ通りデアリマス、若シ夫レ得員ガ所要ニ達シナイ場合ニ於キマシテハ、逐次身長ヲ「メートル」五十迄繰下ゲテ、所要兵員ヲ得ルヤウニ定メラレテアルコトモ、是亦再三申上ゲタ通りデアリマス、尙申上ゲマスレバ最下限タル「メートル」五十八、兵業ト國民體力ノ現狀カラ見マシテ、各種兵ノ選兵ヲ適當ニ致シマシタナラバ、之ヲ此ノ尺寸ヲ以テ我慢ヲシ得ル程度デアルト云フノデアリマシテ、決シテ身長ヲ輕視シテ居ル譯デハナイノデゴザイマス、即チ「メートル」五十八最下

限デアアルノデアリマス、チヨット此處ヲ附加ヘテ申上ゲテ置キマスルガ、昨日説明員ガ身長ヲ活潑ニ繰下ゲルコトヲ獎勵ヲシテ居ル、斯ウ云フコトヲ申上ゲマシタノデ、少シ言葉ガ足ラナイト變ニ聞エマスカラ此ノ點ヲ申上ゲテ置キマスガ、其ノ下ゲ得ル最下限ハ、下ゲタ所デ前申シマシタル通り「メートル」五十デアリマス、併シ此ノ繰下ゲ身長ハ幾ニ縷々申上ゲマシタル如ク「ミリ」ツ、逐次下ゲルノデアリマス、デアリマスガ過去何十年カノ、身長ヲ非常ニヤカマシク言ッテ來タ矢張り其ノ慣ヒガアリマシテ、ナカ／＼検査官ニ依ッテハ「ミリ」ツ、下ゲル、其ノ下ゲルノニ相當ニ苦慮セラレテ居ルト云フヤウナ向モアリマスルノデ、一「ミリ」ツ、下ゲルコトハ、三回下ゲテモ三「ミリ」デアリマス、四回下ゲテ四「ミリ」、五回五「ミリ」、サウ云フ程度デアリマスカラ、一「ミリ」下ゲテ思フ壺ニ人ラナシラ更ニ一「ミリ」、ソレデイカナシラ更ニ一「ミリ」、斯ウ云フ下ゲ方ニ於テハ躊躇ヲスルナ、蓋シ其ノ間ニ可ナリ、一「ミリ」ハ下ツテモ其ノ他ノ條件ニ於テ良イ兵ガ澤山アル、是ハ昨日谷子爵ノ御指摘ノヤウナ譯

デアリマス、サウ云フ譯デアリマシテ、身長ヲ活潑ニ繰下ゲヤルト云フクノハ其ノ意味、其ノ範圍ニアルト云フコトヲ御承知願ヒタナラバ、陸軍ガ身長ハ下ノ方ニハ關心ナク下ゲテ居ルト云フヤウナ御心配ハ先ツナイダラウカト思ヒマス、以上ハ昨日ノ説明員ノ説明ニ一言附加ヘテ置キマス、尙身長ハ一「メートル」六十以上アリマシテ、其ノ他ノ體力全般ニ付テ優秀者ヲ得ルト云フコトハ軍ノ最モ熱望シテ居ル所デアリマス、唯所要ノ得員ヲ得得ナイガ爲ニ「メートル」五十ノ最下限ヲ極メテ、上ノ方カラ逐次下ゲテ行クト一「ミリ」下ゲテ行クト云フコトデアリマス、之ヲ以テ見マスレバ、我が陸軍ニ於ケル所ノ徵兵検査ニ於ケル身長ハ、本検査ニ於テハ重要ナル要素ノ一ツデアリマシテ、如何ニ其ノ他ノ要素ガ充實ヲシテ居リマシテモ、一定身長以下即チ一「メートル」五十以下ハ兵業ニ適シナイト云フテ判決ラシテ居ル點ニ見テモ、其ノ點ハ明カナコトト思フノデアリマス、此ノ點ハ文部省ニ於キマシテモ、右ノ方針ト同様ノ趣旨ノ下ニ、在學者ノ體力ノ全般ノ向上ニ努メテ居ル次第デアリマシテ、野村子爵ノ身長

體重併進ニ關シマスル所ノ御所見ト云フモノハ、陸軍、文部兩省ニ於テモ全ク御同感デアアルノデアリマス、之ヲ以テ昨日ノ御答ニ致シマス、尙次ニ谷子爵カラ、列國ノ兵役期間ノコトニ付テ御要求ガアリマシタガ、調査ノ結果ヲ申上ゲマス、是ハ大體徵兵制度ヲ實施ラシテ居ル國ニ付デアリマス、「ドイツ」ハ十八歳カラ四十六歳迄、滿デ云フト或ハ四十五ニテルカ知レマセヌ、二十年間ニ互ツテ義務付ケラレテ居リマス、「イタリヤ」ハ二十歳カラ五十三歳、三十四年間ニ互ツテ居リマス、「フランス」ハ二十カラ四十七、二十八年ニ互ツテ居リマス、「ソヴィエト」ハ十九カラ四十、二十二年ニ互ツテ居リマス、「ポーランド」ハ二十カラ五十三、三十一、三十二年ニ互ツテ居リマス、之ヲ以テ見マスト、何レモ我が國ヨリ長クアリマシテ、大體「ソヴィエト」ガ我ト同ジデアリマス、是ヲ以テ觀マスト昨日モ申上ゲマシタル通り我が國ガ新銳ナル四十歳迄ニ止メマシテ、斯ウ云フヤウニ延バシタ諸外國ノ國民ガ長イ年數ニ義務付ケラレタ現況ニ於テ、我が國ガ之ニ對抗シテ行ケルト云フコトハ、是ハ昨日モ申上ゲマシタガ、一面ニ觀マシテ我

ガ皇國ノ持ッテ居ル大ナル強味デハナイカ  
ト思ハレルノデゴザイマス

○男爵淺田良逸君 徵集猶豫ノ問題ニ付キ

マシテ、私トシテ最後ノ質問ヲ試ミタイト  
思ヒマス、中學ヲ卒業シ高等學校ニ入り、  
大學へ進ム者トシテ一年ホカ餘裕ヲ持タナ  
イト云フコトニ關スル件デゴザイマス、委  
員外ノ同僚ニ話シテ見マシテモ、何トカナ  
ラヌモノダラウカト云フ風ニ申ス人ガ多イ  
ノデアリマス、政府ノ御答辯ニ於キマシテ  
モ、詰リ何カノ事情デ二回遅レルコトニ  
ナリマス、入營ヲ致サナクテハナラナイ  
譯ニナルノデアリマスガ、御話ノヤウニ二  
回位ノ餘裕ハ何トカ付ケテ置キマセヌト工  
合ノ惡イ場合モアラウト思ヒマス、斯ウ云  
フ風ニ政府委員モ申サレテ居リマス、文部  
省側デアリマス、仍テ私ハ私的ニ文部省ノ  
方ニ若シモ何トカシテ特別ナモノニ對シテ  
特例ヲ設クル、特別ノ場合ニハ斯クノ如ク  
シテ第二年目ノ猶豫ハ御許シニナル、サウ  
云フコトノ具體的ナ御研究ヲ御願フシタイ  
ト云フコトヲ此席デハアリマセヌガ、數會  
後ニ於テ、文部省ノ當局ニ數日前之ヲ申上  
ゲテ御願ヲ致シテ置キマシタ、恐ラクハ此  
ノ件ニ付テハ御研究濟ミト考ヘマス、若シ  
假ニサウ云フ特別ナモノニ對シテ特例ヲ設

クルトセバ如何様ニナサル御趣旨デアルカ、  
文部省ノ御考ヲ伺ヒタイノデゴザイマス

○政府委員(小柳牧衛君) 只今ノ御質問ニ

御答ヘ致シマス、學修ノ便宜ヲ圖ルコトニ  
付キマシテ色々御同情アル御話ニ付キマシ  
テハ、當局ト致シマシテモ感謝スル次第デ  
アリマス、御話ノ點ニ付キマシテ色々考究  
致シマシタケレドモ、斯ウ云フヤウナ方法  
ニ依ッテ斯クノ如キモノニ對シテ便宜ヲ與ヘ  
ルト云フコトハ、頗ル關係ガ多イノデアリ  
マシテ、今一ツノ方針トシテ御答ヲスル程  
度ニ達シテ居ナイノデアリマス、特例ヲ設  
ケルト云フコトハ、場合ニ依リマシテ誠ニ  
必要ニ考ヘラレル節モアリマスケレドモ、  
一ツノ制度トシテ之ヲ認メマスケレドモ、  
之ヲ運用スル上ニ於テ又色々場合ヲ生ズ  
ルノデアリマシテ、慎重考究シナケレバナラ  
ヌコトト思フノデアリマス、殊ニ兵役法ノ  
可ナリ廣イ方面ニ互ッテ改正スル際ニ、一々  
又色々ノ問題ヲ惹キ起スヤウナ特例ハ餘程  
慎重ニ考ヘナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウニ  
考ヘラレマスルノデ、御話ノ點ニ付キマシテ  
ハ引續イテ考究ヲ致シタイト思フノデアリ  
マス、今茲ニハキリ申上ゲル迄ニナッテ居  
ラヌコトヲ遺憾ニ思フ次第デアリマス

○男爵淺田良逸君 ソレデハ致シ方ガゴザ

イマセヌカラシテ、其ノ問題ハソレダケニ  
止メマス、次ハ現ニ高等學校ニ入ッテ居リマ  
ス者ガ來年大學ニ入りマスル場合ニ於テハ、  
舊法ニ依ルコトナク新法ニ依ラナケレバナ  
リマセヌノデ、猶豫期間ガ短縮サレルコト  
ニ相成リマス、元々高等學校ニ入りマス時  
ハ毛頭斯様ニ變ルトハ思ウテ居ナカッタデ  
アラウト思ヒマス、私ハ既得ノ權利トハ考  
ヘマセヌケレドモ、既ニソレヲ見込シテ高  
等學校ニ入り、而モ高等學校ハ大學ニ入ル  
ト云フコトガ極ッテ居ル、謂ハバ膠著サレタ  
ル状態ニ置カレテ居ル所ノ高等學校ノ學生  
ガ、來年再來年ニ於テ大學ニ入ルナラバ、  
中途挫折ヲシナケレバナラヌ者ガ其ノ中カ  
ラ起ッテ來ルト云フコトハ、是ハ誠ニ同情ニ  
値スルコトト思ヒマス、實際サウ云フ境遇  
ニ在リマス者ヲ持ッテ居ル親トシテ忍ビナ  
イモノガアルノミナラズ、國家トシテモ餘  
リ澤山ノ數デモアルマイシ、國家トシテ別  
ニソレガ爲ニ非常障ヲ被ル譯デモナカ  
ラウカラ、何トカシテ此ノ附則ノ末項ヲ  
改メマシテ、現ニ高等學校ニ入ッテ居  
リマス者ノ大學ニ轉入スルコトハ差支ナ  
イヤウニ改ムルト云フコトノ御研究ガ  
如何ナモノデアリマセウカ、サウス  
レバ斯ウ云フコトニ響クト云ウテ、

過分ノ神經ヲ尖ラスコトナク、ソレハソレ  
ダケノモノデアルト限ッテ考ヘテ見レバ差  
支ガナイコトデアラウト思フデアリマス、  
尙其ノ點ニ關聯ヲ致シマシテ申上ゲタイコ  
トハ、大學ノ豫科ニ居ッテ學部ニ進ム者ハ、  
ソレハ明カニ轉校デアルト申サレマシテ、  
ソレハサウ云フ風ニ御考ニナレバソレ迄ノ  
コトデアリマスケレドモ、私ハ陸軍カラ省  
令トシテ出サレテ居リマス在學入學延期者  
暫行規程ト云フモノヲ、繕イテ見タノデゴザ  
イマス、サウスルト其ノ第八條ニ於キマシ  
テ明カニ、豫科カラ學部ニ進ム者ハ事由繼  
續スル者ト看做シテ取扱フト云フ御規定ニ  
ナッテ居ルノデアリマス、是ハ死シタゴト同様  
ナ法規デアアルカモ知ラヌケレドモ、現ニ  
法規輯覽ノ中ニ掲載ヲセラレテ居ル生キテ  
居ル法規デゴザイマス、其ノ規則ノ中ニ於  
テ斯様ナコトガアリトスレバ、恐ラク私ハ  
陸軍ノ見方ガ少シ違フノデハナイカ、其ノ  
第二號ニ「大學令ニ依ル大學ノ豫科ノ課程  
ヲ修了シ引續キ直ニ其ノ學部ニ入學スル者」  
モウ一ツ讀ンデ見マスケレバ、「高等學校高等  
科ノ課程ヲ修了シ引續キ直ニ其ノ專攻科ニ  
入學スル者」其ノ他ノ項モアリマシテ、是  
カラスルバ事由繼續スル者ト明カニ從來陸  
軍ニ於テハ認メ來ッテ居ルノデアリマス、從

來陸軍ガサウ認メ來ッテ居ッテガ、今回御改  
正ニナルト云フナラバ、ソレハ或ハサウカ  
モ知レマセスケレモド、從來ノ精神ヨリ解  
スル場合ニ於テ、私ハ軍ト致シマシテハ、  
矢張り豫科カラ學部ニ入ル者ハ事由繼續ス  
ル者ト云フ風ニ御取扱ニナルノガ、純理上  
適當デアラウカト思ヒマス、其ノ點ハドウ  
云フモノデアルカ、一ツ御所見ヲ伺ヒタイ  
ノデゴザイマス

○政府委員(中村明人君)

只今ノ御質疑ニ

對シテ御答ヘ致シマス、第一問デゴザイマ  
スルガ、是ハ親心トシ、又サウ云フ氣ノ毒  
ナ學生ノ心情ニ深く立入ッテ考察ヲ致シマ  
スレバ、誠ニ其ノ通りデ同情ニ値スルモノ  
アルコトハ認メルノデアリマスケレドモガ  
元々此ノ兵役法ノ改正ト云フコトハ縷々申  
上ゲマシタル如ク、此ノ平靜狀態デナイ國  
家ノ重大時期ニ直面ヲシテ行カウト云フ所  
デアリマスルノデ、實ハ出來ルナラバ先般  
織田博士カラ御意見モアリマシタ、ア、云  
フ、一遍ニデモ止メタイ、是ハドウカシテ  
止メラレナイカト云フコトニ付テ實ニ苦慮  
シタノデアリマスルガ、併シ又サウシタナ  
ラバ學生ハ嘸困ルダラウ、ソコデ其ノ程度  
ヲドウスルカト云フコトニ付テ、文部省ト  
モ陸軍交ヘテ屢次折衝ヲシタ結果ガ此處ニ

落チタノデアリマス、軍ト致シマシテハ左  
様ニアルニ依ッテ、モウ既ニギリ、是デ  
學生ニモ此處迄ハ忍シテ貫ハナケレバナラ  
ヌ、親モ亦是迄ハ眼ヲツブッテ貫ハネバナ  
ラスト云フ所デ、御互ニ是ハ近寄ッテ所ト  
思フノデアリマスガ、是非此ノ點御諒承願  
ヒタイト思フノデアリマス、手前味噌カモ  
知レマセヌガ、若シ此ノ通り法令ガ發布ニ  
ナリマシタナラバ、學生モ自分ノ入ルベキ  
高等學校ヲ、皆第一高等學校ヘ志願モスル  
デアラウケレドモ、一高ヲ志願シヨウト  
思ッタガ八高ヘ行カウ、或ハ水戸ヘ行カウト  
云フコトニナッテ、今迄ハ或程度ノ勉強ニ  
止メテ居ッテ者モ、更ニ眞劍ニナッテ一ツ勉  
強シテ、モウ是カラハヤリ損フマイト云フ  
一ツノ不退轉ノ決心ヲ學生モ致ストシタナ  
ラバ、先ヅ是デ父兄モ學生モ忍シテ戴イテ、  
サウシテ又理由モ、此ノ國家ノ現狀ニ即ス  
ルヤウニ一年デモ早く、一人デモ多く、早く  
學校ヲ卒業シテ、國家有爲ノ材ニナラウト  
云フ氣持ニナルノデハナカラウカト思ハレ  
ルノデアリマス、若シ特別ナコトデ、之ニ特  
例ヲ作りマシタトシタナラバ、寧ろ其ノ害  
ノ方ガ、今是ダケノ範圍ハ忍シテ戴キタイ  
ト云ッテ御願ヲシテ居ル其ノ範圍ヨリモ、寧  
ろソレヲ可哀サウダトシテ特別ヲ作ッテ特ニ

認メタ、其ノ特別ノ全般ニ及ス害ノ方ガ大キ  
クナイカ、斯ウ云フ見方モアアルノデアリ  
マス、此ノ點ハ十分一ツ御考慮ヲ煩ハシタイト  
重ネテ御願ヲ致シテ置キマス、ソレデ第二問  
デゴザイマスガ、私モ一月足ラズノ此ノ職デ  
アリマシテ、深ク前ニ御指摘ニナリマシタ  
陸軍ノ暫行規定アタリノ解釋ガドウナッテ  
居リマシタカ、無論淺田男爵ノ御指摘ノ通  
リダト思ヒマスガ、其ノ點ハ後ニ研究ヲ致  
シマシテ、直スベキナラバ直サナケレバナ  
ラスト思ヒマスガ、豫科ト大學トノ關係、  
高等學校ト大學トノ關係ハ、是ハ矢張り文  
部省ノ見解ノ如ク、獨立シテ居ルノガ至當  
ダト私ハ思フノデアリマス

○男爵淺田良逸君

初ノ問題ニ付キマシ

テ斯ウ規則ガ改マルト、學生ノ氣分モ變リ、  
覺悟モ改マリ、大イニ良クナルデアラウト  
云フコトハ、ソレハ私モ別ニサウデナイト  
ハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、唯過去ノ  
問題ナノデ、是カラ先ノ問題デハナイ、既  
ニ高等學校ニ今入學ヲシテ居ル者ト云フ、  
極ク狭イ範圍ニ限ラレタ特別ナ事情ガアリ、  
既ニ膠著狀態ニ置カレテ居リマス者ヲ救フ  
ト云フコトハ、決シテ私ハ全般ニ害ヲ殘  
スモノデハナイ、先程ノ特別ナ者ニ對シテ  
特別ヲ設ケテハドウカト云フコトハ話ガ

違フノデアリマス、デ是ハ何モ差支ナイ、  
法文上ノ、技術上ノコトハ私ハ能ク存ジマ  
セヌケレドモ、「昭和十四年十二月一日ニ  
於テ現ニ」云々ト云フ所ヲ「昭和十六年十二  
月ニ於テ」云々ト云フコトニデモ直セバ、  
直チニ解決ノ出來ル問題デアリマシテ、何  
等外ニ響カナイノデアリマス、勿論此ノ問  
題ニ付キマシテモ、十分ニ文部當局ト軍部  
ノ兩者ガ鳩首擬議サレタニ相違ナイト思ッ  
テ居リマス、其ノ結果茲ニ至ッタト云フコ  
トハ、ソレハ能ク私共分リマスケレドモ、  
一度此ノ事ヲ同僚ニ報告ヲ致シマスレバ、異  
口同音ニ委員外ノ者ニ於キマシテ、ソレハ  
高等學校ニ現ニ入ッテ居ル者ハ許シテヤッテ  
宜カラウヂヤナイカ、何トカ出來レバサウ  
シテヤリタイモノダト云フコトハ、私ノ話  
ヲスル範圍ニ於キマシテハ、皆之ニ同意ヲ  
表シテ居ルノデアリマス、デゴザイマスガ  
ラ成ル程文部省ト陸軍省ノ御相談ハ十分ニ  
御遂ゲニナッタト云フコトハ疑フモノデアリ  
マセヌケレドモ、又其ノ他ノ、以外ノ者ガ  
其ノ他ノ考モ有ッテ居ル、ドツチカト申セバ  
軍ハ非常ニ強硬ナル考ヲ以テ此ノ國難ヲ打  
開スベク熱烈ニオヤリニナッテ居ル、其ノ熱  
烈ナル御意見ノ反照ハ直チニ文部省ニ響キ  
マシテ、文部省ハ之ニ對シテ同意ヲ與ヘラ

第四部第二類 兵役法中改正法律案特別委員會會議事速記第六號 昭和十四年二月三日

第デアリマス

レタノデハナイカト思ハレル、私ハソレヲ  
惡イトハ申シマセヌケレドモ、私共議員ノ  
立場カラ之ヲ公正ニ考ヘテ見マシテ、サウ  
マデセヌデモ宜シイ、救フコトガ出來ルナ  
ラバ此ノ際ハ特例デハナイ、只今度新ニ  
附則ヲ設ケル際ニ於ケル一ツノ技術ニ過ギ  
ナイコトデアアル、特例デハ決シテアリマセ  
ヌ、左様ナ風ナ意味ニ於キマシテ、全般ニ  
響クモノデハナイト思ハレル、此ノ問題ヲ  
解決スルト云フコトニ付キマシテ、今一應  
陸軍側ノ方ハ何遍聽イテモ同様ト思ヒマス  
ルケレドモ、文部省側トシテ之ニ對スル御  
所見ヲ承リタイト思ヒマス

○政府委員(小柳牧衛君)

只今ノ御質問ニ  
御答ヲ致シマス、附則ヲ適當ニ考慮シテ、  
現在豫科及高等學校等ニ在ル者ノ謂ハバ既  
得權トモ云ハレルヤウナモノニ對シテ、特  
例ヲ認メルコトノ所見ヲ御問ニナツタノデ  
アリマスガ、當局ト致シマシテハ屢、申上ゲ  
マシタ通り、陸軍當局ト協議ヲ重ネマシテ、  
此ノ程度ノ改正ハ已ムヲ得ナイモノトシテ  
考ヘタノデアリマス、併シ只今ノ御話ノ點  
ハ十分ニ考慮致シマシテ、尙研究致シタイ  
ト思フノデアリマス、只今ノ所デハ此ノ程  
度ノ改正ハ已ムヲ得ナイト考ヘテ、從テ  
其ノ附則モソレヲ以テ適當ト考ヘテ居ル次

○男爵淺田良逸君

前問題ハ際限ノナイコ  
トデアリマスカラ、ソレヲ以テ止メテ置キ  
マス、次ハ前回織田博士ヨリ徵集猶豫全廢  
ニ關スル御質問ガアツタ際、學校教練ト云フ  
モノハ不徹底ナモノデアツテ、ソレヨリモ入  
營ヲセシムレバ實際體驗ヲシテ軍紀ノ中ニ  
人ツテヤレルカラ效果的デアアル、ソレハ勿論  
サウデアアル、サウシテ生半可ナ教練ヲ受ケ  
テ置クト、往々ニシテ弊害モアル、彫刻ノ  
學校ニ於テハ、手が震ヘテ、ソレガ爲ニ出  
來ナイト云フヤウナ不都合モアル云々ト云  
フコトガアリマシタガ、陸軍ノ方カラ  
ハソレニ對シテハ何等御答ハナカッ  
タ、別ニ御答ガナカッタカラ是認シタ  
ノデアルトモ私ハ考ヘマセヌノデアリ  
マスガ、引續キマシテ野村子爵ヨリ、全ク  
其ノ反對ニ學校教練ノ頗ル效果的デアアル  
コトヲ御述ニナリマシタ、是レ亦一言モ  
御答ガナカッタノデアリマス、ソコデ何レデ  
モ宜シイト軍デ考ヘテ居ルノデアアルカ、勿  
論左様ナコトハナイダラウト思フケレド  
モ、私ハ是ガ非常ナル誤解ヲ生ズルコトニ  
ナリハシナイカト思ヒマス、申ス迄モナク  
學校教練ハ心身ノ鍛鍊ヲ主トシ、規律節制、  
其ノ外國民トシテ最モ大切ナルコトヲ訓

○政府委員(中村明人君)

當時學校教練ノ  
問題デチヨイ、御發議ニナリマシタコト  
ハ承知ヲシテ居リマス、併シソレハ唯、色  
色ナ此ノ法令ヲ審議スル上ニ付テ御出シニ  
ナツタコトデ、實ハソレニ一々御答辯ヲシナ  
クテモ、モウ學校教練ノドウ云フモノデア  
ルカト云フコトハ、少クモ日本國民ガ信ジ  
テ疑ハヌ所デアラグラウ、折角重點主義ニ、  
此ノ非常時局デアリマスカラ、重點ニ力ヲ  
用ヒテ、少シデモ多クノ時間ヲ此ノ要點ニ  
注ギ込マウト云フ趣旨デ、教練ノ點ハ御答

練ヲセシムルノガ教練ノ主目的デアリマシ

テ、之ガ爲ニ戰術戰技等ノ學科ヲモ行フモ  
ノデアリマスケレドモ、決シテ私ハ教練  
ヲ行フ爲ニ、音樂ナラ音樂、彫刻ナラ彫刻  
ノ本科ニ妨害ガアルカノ如キコトヲナサル  
モノデハナイ、現實左様ナコトガ行ハレテ  
居ルトシタナラバ、ソレハ行フ人ノ責デア  
ツテ、教練其ノモノノ咎デハナイ、ヤリ方ニ  
依リマシテハ決シテ左様ナ弊害ガ起ルモノ  
デナイト、自分ハ全クサウ云フ風ニ考ヘテ  
居ルノデアリマスケレドモ、軍部ニ於テ此  
ノ點ヲモウ少シク明カニシテ置カナケレ  
バ、私ハ速記ナドニモ殘リマスルシ、禍ヲ  
後日ニ貽スモノデアルト思ヒマスノデ軍ノ  
所見ヲ御尋ネシタイノデアリマス

○政府委員(中村明人君)

當時學校教練ノ  
問題デチヨイ、御發議ニナリマシタコト  
ハ承知ヲシテ居リマス、併シソレハ唯、色  
色ナ此ノ法令ヲ審議スル上ニ付テ御出シニ  
ナツタコトデ、實ハソレニ一々御答辯ヲシナ  
クテモ、モウ學校教練ノドウ云フモノデア  
ルカト云フコトハ、少クモ日本國民ガ信ジ  
テ疑ハヌ所デアラグラウ、折角重點主義ニ、  
此ノ非常時局デアリマスカラ、重點ニ力ヲ  
用ヒテ、少シデモ多クノ時間ヲ此ノ要點ニ  
注ギ込マウト云フ趣旨デ、教練ノ點ハ御答

ヲ致シマセヌデシタガ、只今淺田男爵カラ

御注意ガアリマシタノデ喜ンデ此ノ點ハ申  
上ゲ、又殊ニ學校教練ニハ造詣ノ深い淺田  
男爵カラ御指摘ニナリマシタノデ、喜ンデ  
私カラ之ニ陸軍ノ考ヘテ居ルコトヲ、全般  
ノコトト關聯ヲシマシテ申上ゲマス、學校  
教練ノ偉大ナル效果ヲ持チ來シタト云フコ  
トハ、モウ前言ノ通りデアリマス、之ヲ疑  
フ者ハ私ハ無イト思ヒマスガ、先般織田博  
士ノ申サレマシタ、無論軍隊ニ正式ニ入レ  
テ、サウシテ眞劍ニヤラセルト云フコトノ  
效果ノ優レルコトハ全ク御説ノ通りデア  
ルト申シマシテ、茲ニ學校教練ヲ決シテ否定  
シタ……學校教練ノ效果ヲ低下シテ申サ  
レタノデハナクテ、軍隊教育ノ非常ニ尊イモ  
ノデアルト云フコトノ其ノ效果ヲ御指摘ニ  
ナツテ、我々ハソレニ全幅ノ贊成ヲ申上ゲ  
タ次第デアアル、次ニハ此ノ音樂學校、美術學  
校ノ問題デゴザイマスガ、是ハ全ク淺田男  
爵ノ御指摘ニナツタ通りデアリマシテ、當時  
織田博士カラ御指摘ニナリマシタコトモ、  
是ハ教練ノヤリ方ガ拙イトア、云フコトニ  
ナル、詰リ仕様ニ依ツテハ決シテ害ノ無ク  
出來ルモノデアアル、斯ウ云フヤウニ私ハ當  
時考ヘタノデゴザイマスガ、若シ教練ヲヤ  
ルカラ美術學校、或ハ彫刻學校ノ課業ガ出

來ヌト云フナラ、是ハモウ全ク只今淺田男爵ノ申サレタ通りデアリマシテ、左様ナコトハ唯ヤリ様ガ悪イカラデアツテ、ヤリ様ノ如何ニ依ルコトト思フデアリマス、又野村子爵ノ學校教練ノ成果ヲ御述ニナツタコトハ、私ノ先程申シタ通り、モウ具眼ノ士ハ皆之ヲ御認メ下ステ居ルノデアリマスカラ、是レ亦別ニ私ガ其ノ效果ヲ裏書セヌデモ宜イコトト思フノデゴザイマス、之ヲ要シマスルノニ、學校教練ニ付キマシテハ、其ノ效果ヲ何等疑フ者デナク、創設以來我が國民、又我方國ノ總テノ能率ニ一大威力ヲ加ヘタト云フコトハ疑フベカラザルコトデアリマシテ、只今淺田男爵ノ仰セノ通りデアリマス

○男爵淺田良逸君 師範學校ヲ卒業致シマシテ教師トナリ、適時短期現役兵ニ入りマス者ニ付キマシテハ、年々文部省ニ於キマシテ短期現役兵俸給支給ニ關スル豫算ガ出テ居ルト思フデアリマス、昨年ヨリモ今年ハ幾ラカ殖エテ居ルヤウデアリマスケレドモ、私ハ茲ニ豫算ノ内容ニ互ニテ御尋ネスルノデアリマセヌ、是ガ二年ニナリマシタ時ニ、如何取計ラフ積リデアルカ、五箇月ノ場合ニ於キマシテハ、ドノヤウナ俸給ノ支拂振リデアツカ、又今後二箇年ニナツ

タ時ニハ、如何取計ラフ積リデアルカ、ソレニ依ツテドウ云フ影響ガ將來及ブデアラウカ、國庫ノミナラズ、地方費ニモ影響スルコトデアリマスノデ、其ノ邊將來ニ對シテドウナサルカノコトヲ伺ヒタイノデアリマス、

○政府委員(藤野惠君) 只今淺田男爵ノ御尋デゴザイマスガ、仰セノ通り現在ノ取扱ハ短期現役服役小學校教員俸給費國庫負擔法ニ依リマシテ、短期現役トシテ服役中ノ小學校正教員、師範學校卒業者タル正教員ニ對シマシテハ、其ノ期間中、陸海軍給與令ニ依リマスル所ノ給與ノ支給ハ受ケマセヌガ、其ノ俸給費ノ三分ノ一ヲ給スルノ制デゴザイマス、今回兵役法ヲ改正ニ相成リマシテ、短期現役ノ制ハ一應廢サレルコトニ相成リマスガ、師範學校卒業者タル小學校正教員ノ給與上ノ取扱ト致シマシテハ、尙從前通り三分ノ一ノ給與ヲ致シタイ、斯様ニ考ヘマシテ、前述ノ短期現役服役小學校教員俸給費國庫負擔法ノ一部改正案ヲ只今立案中デゴザイマス、關係者ト商議ヲ致シテ居リマス、成ルベク速カニ提出ノ運ビニ致シタイト、目下折角取急イデ居リマスル次第デゴザイマス

從來短期現役兵ニ付テ支給ヲ致シテ居リマシタ俸給ト額ハ同等デアルカ違フカ、ソコハ將來ノ問題デ分リマセスケレドモ、兎ニ角支給スルト云フ御考ノヤウニ思ハレマス、サウスルト一方代用教員ニ付キマシテモ、亦徴兵ニナリマス前ニ既ニ教員ノ職ニ就イテ居ル者モゴザイマス、代用トハ申シナガラ既ニ教職ニ在ル者デアル、又ソレ以外ニ本科正教員ノ免狀ヲ別ニ持ツテ居ル者モアリ得ルト思ヒマス、ソレ等ノ者ガ今度ハ丁年ニ達シテ普通ノ兵トシテ入りマス場合ハ、ソレハ如何取計ラフ積リデアリマセウカ、若シソレヲヤラヌト云フコトニナルト、同ジ教員ノ地位ニ在ツタ者ニ付テ差別ガ其處ニ付クト云フコトニ相成ツテ參ル、ソレハ差支ナイ御見込デアアルカドウカ、又次ニハ教員ニ對シテ二箇年ノ長キニ互ル服役中俸給ヲ支給スルト云フコトニナリマスレバ、是ハ他ノ教職ニ在ル者或ハ他ノ官吏、サウ云フ者トノ鈞合ヲモ考慮シナケレバナラス私ハ、國家トシテ教員デアアルガ故ニ、ドウト云フコトデハナイイダラウト思ヒマシテ、是ハ重大ナル國ノ豫算ニモ影響ヲ及ボスコトヲ考慮シナケレバナラスト思ヒマス、唯小學校ノ教員デアアルカラト、斯ウ言ヘバソレモ通りサウデアアルケレドモ、冷靜ニ考ヘテ見

ルト地位ハ違フケレドモ、矢張り官吏デアリ公吏デアリ、色々是ト類似ノ考ヲ以テ進マナケレバナラス者ニ對シテハ、矢張りサウスルト二箇年間何等カ俸給ノ支給ヲシナケレバ鈞合ガ執レナイコトニ思フガ、其ノ邊ニ付テハドウ御考デアアルカヲ御尋ネ申上ゲタイ

○政府委員(藤野惠君) 只今ノ御尋ノ點デゴザイマスガ、第一點ノ同ジク兵役關係ニ立ツコトアルベキ小學校教員、特ニ小學校教員中正教員タル者モアル譯デアツテ、ソレ等ト師範學校卒業者トノ間ニ權衡上如何アラウヤト云フ點ニ付テノ御質疑ト心得マシテゴザイマス、仰セノ通り師範學校ヲ出マシタ者ノ外ニ、檢定等ニ依リマスル正教員等ガゴザイマスルコトハ御述ノ通りデゴザイマス、併シナガラ從來トテモ短期現役ノ制度ガ御承知ノ通りニ古イ沿革ヲ持ツテ居リ、其ノ間矢張り正教員タル身分ノ者ハ獨リ師範學校ノ卒業者ニハ限ツテ居ラナカッタ次第デアリマス、今回短期ノ服役ト云フコトガ師範學校卒業者ニ付テ之ヲ廢止致サレマスケレドモ、其ノ服役期間ガ延長サレテ、一般ト同様ノ服役期間ニナツタト云フコトニ過ギズシテ、師範學校ト云フモノノ特殊性、即チ國家ガ小學校教員養成ヲ目的ト致シマ

シテ特ニ設ケ、各般ノ特色ヲ持ッテ居リマ  
スル師範學校ノ修了者ニ對シテ、服役期  
間中ノ取扱トシテ斯様ナ方法ヲ將來ニ  
向ッテ持續ヲ致シマスルコトハ、從來ノ  
沿革上カラモ、又師範教育其ノモノノ特色  
ノ上カラモ、大體ニ於テ支障ノ無イモノト  
一應斯様ニ考ヘテ居リマス、第二點ノ同様  
ノ事情ニ立ツデアラウ所ノ、詰リ服役等ノ  
關係ニ立ツデアラウ所ノ他ノ官吏等ト較ベ  
テ、又其處ニ何等カ不均衡ヲ來スヤウナ虞  
ハアルマイカト云フ御尋ト拜承致シマシテ  
ゴザイマス、一應御尤ニモ存ジマスルガ、  
他ノ身分上ノモノニ付キマシテハ、ソレト  
其ノ職員ノ身分ヲ規定致シマスル、例ヘ  
バ公立學校職員令其ノ他色々ノ規定ニ依リ  
マシテ、其ノ服役期間中ノ取扱ハ各、定メガ  
アルノデアリマシテ、前項前段申上ゲマシ  
タヤウニ師範學校ト云フ特殊ノ教育ヲ受ケ  
マシタ其ノ卒業者ノ取扱ト致シマシテハ、  
尙從前ト同様ノ取扱ヲ致シマスコトニ於テ  
格別ノ御心配ヲ戴クコトモナク其ノ點ハ、  
大體行クモノデアラウト斯様ニ考ヘテ居リ  
マス

職ヲ奉ズル者ハ、終身陸軍ニ或ハ海軍ニ從事  
仕ルベク候ト云フ意味ノ宣誓ヲ致シテ居ル  
モノデアリマスルケレドモ、小學校ノ教師  
ニ於キマシテハ、何年間トカ云フ義務年限  
ガ課セラレテ、極ク輕イ程度ノモノデアラ  
ウト思ヒマス、一方師範學校卒業者ニアラ  
ザル教員ト雖モ、兵ニ入りマシテカラモ長  
イ年月ノ間教職ニ在ッテ國民教育ニ貢獻ヲ  
スル次第デアリマス、サウスルト師範學校  
デアルガ故ニト云フコトガ口デハ一應申サ  
レルコトデアリマスケレドモ、餘リ大ナル  
理由ニハナラヌト思フ、師範學校卒業ト云  
フコトデナクテ、國民教育ニ任ズル者ト云  
フ風ナ考ヘ方デ進ム方ガ寧ロ適當デハナイ  
ノダラウカト思ヒマス、國民教育ニ從事ス  
ル者ト云フ見地デ行キマスレバ、其ノ待遇  
等ニ於テモ一様デアリタイ、私ハ、サウス  
ベキガ當局ノ御取計デハナカラウカト思ヒ  
マス、從來歴史傳統ガアルト云フコトハ、  
ソレハ固ヨリ其ノ通りデゴザイマス、茲ニ  
其ノ規則ヲ改メ、全ク是ハ特典デヤナイ、  
優遇デヤナイ、國家ノ必要上左様デアット  
云フコトハ、他ノ教職ニ在ル者ト何等相違  
ハゴザイマセヌ、左様ナコトヲ考慮シテ私  
ハ前意見ヲ申上ゲタノデアリマスケレドモ、  
ソコハ意見ノ相違デモゴザイマセウカラ、

私ハ此ノ問題ニ付テ重ネテ御答辯ヲ煩ハス  
必要ガゴザイマセヌガ、何トシテモ此ノ問題  
ヲ精細ニ考ヘマスル時ニ、私ハ、文部省ガ  
主管デアルカラトカ云フコトデナクテ、國家  
ノ全體ヲ睨ミマシテ、極メテ公正ニ、サウ  
シテ適正ニモノノ御取計ヲシナケレバナラ  
ヌモノデアルト云フ愚見ヲ申上ゲテ、將來  
御考慮ヲ煩ハシタイノデアリマス、ソレカ  
ラ其ノ次ニ本議場ニ於キマシテ、長岡博士  
アタリカラ熱烈ニ天才教育ノ必要ナルコト  
ヲ御述ニナリマシタ、實ハ當時委員會ニ出  
テ居リマシタノデ、政府ノ答辯モ承ッテ居リ  
マセヌガ、極メテ稀ニ出テ來ル所ノ天才ヲ、  
出來ルダケ其ノ天賦ノ能力ヲ發揮スルヤウ  
ニ仕向ケルト云フコトハ、國家トシテ極メ  
テ大切ナコトデアリマス、此ノ意味ニ於キ  
マシテ若シモ天才ガ出タトシタ場合ニ於  
テ、兵役法上何カ軍ニ於テ考慮スルノ用意  
アリヤ否ヤ、法文上ニハソレヲ見出スコト  
ハ出來マセヌケレドモ、或國ニ於テハサウ  
云フ事ガアッタノデヤナイカト云フコトヲ  
申ス人モゴザイマス、ソレハ運用デヤッテ居  
リマスカ、法規デヤッテ居リマスカ存ジマセ  
ヌガ、尤モ御氣持トシテハ之ニ類似シタコ  
トヲ先般局長カラ御話ニナツタ、大乗のニ精  
神ヲ取レバサウ云フ氣持デゴザイマセウ

ガ、併シ私ハ、此ノ前ノ問題トハ少シ趣ヲ  
異ニ致シマシテ、不出世ノ天才ガ現レタ時  
ニドウナサイマスカ、實ハ是ハ私ノ質問デ  
アリマセヌデ、サウ云フコトヲ同僚カラ申  
サレタ、成ル程ソレモサウダナト思ヒマシ  
タノデ、チョット御尋ヲ申上ゲル次第デアリ  
マス

○政府委員(中村明人君) 不出世ノ天才ノ  
御話デアリマスカラ、是レ甚ダ常軌ヲ以  
テ……陸軍ト雖モドウモ今日豫定ヲシテ居  
ラナイ所デゴザイマスガ、不出世ノ天才ガ出  
マシタナラバ、國家、國軍總テテ較量致シマ  
シテ、其ノ時ニハ善處スベキデアルト思ヒ  
マスガ、ソレ以上ニハ今研究モ無ク、又申  
上ゲマシテモ私一箇ノ議論ニ陷ルノデゴザ  
イマシテ、將來愉快ナル問題ヲ課セラレタ  
ト云フ意味ニ於キマシテ研究ヲ持續致シタ  
イト思ヒマス

○織田萬君 先程淺田男爵カラ現ニ高等學  
校又ハ大學豫科ニ在學スル者ニ對スル所ノ  
特例ニ付テノ御質問ガアリマシタ、私モ此  
ノ點ニ付テハ全ク同感デアリマシテ、何ト  
カシテ此ノ改正附則ノ末項ノ精神ノ恩澤ヲ  
蒙ラセタイモノダト思フノデアリマス、謂  
ハバ此ノ末項ノ解釋ニ依ッテモ何トカナ  
リ得ベキデヤナイカト思フ位ノモノデアリ

マス、特例トハ言へ、現ニ具體的ニ斯ウ云

フ人間ガアルト云フコトガ眼ノ前ニ見エテ  
居ッテ、之ニ對スル特例デアリマスルカラ、

何等後ニソレガ濫用サレト云フヤウナ虞  
モ無イノデアアル、デアリマスルカラ、敢テ

此ノ末項ノ昭和十四年十二月一日トアリマ  
スル此ノ日附ヲ改メルト云フヤウナコトデ

ナク、例ヘバ更ニ一項ヲ加ヘテ、現在高等  
學校ニ在學スル者ノ帝國大學ニ於ケル關係

竝ニ其ノ他ノ大學豫科ニ現ニ在學スル者ノ  
其ノ大學ニ於ケル關係ハ、其ノ者ガ現ニ在

學スル學校ニ於テ引續キ在學スル者ニ準ズ  
ルトカ何トカ云フ、サウ云フ簡單ナ規定ヲ

御加ニナツテモ、此ノ誠ニ同情スベキ學生ガ  
救ハレルノデヤナイカト思フノデアリマス、

ソレ位ノコトハ此ノ附則ノ經過規定ノ  
適用デアルト云フ位ニ御考ニナツテ、何トカ

ナリサウナモノデヤナイカト私ハ思フノデ  
アリマスガ、同ジ問題ヲ重ネテ提起シマシ

テ、其ノ爲ニ時間ヲ取ッテハ甚ダ恐縮デアリ  
マス、ケレドモ、一ツ其ノ點ニ付テ何トカ

御考慮ガ出來ナイカト云フコトヲ御尋ネシ  
タイト思ヒマス

○政府委員(小柳牧衛者) 只今ノ御質問ハ

先刻淺田男爵ニ御答ヘシタト同ジ考ヲ持ッ  
テ居ルノデアリマス、左様御了承ヲ願ヒタ

イト思ヒマス

○松本學者 御質疑モ大分各方面カラ出マ  
シテ、大體了承致シタノデアリマスガ、私

ハ簡單ニ一言ダケ承ッテ見タイノデアリマ  
ス、ソレハ先達テ三井委員カラ御尋ニナツ

コトニ關聯致スノデアリマスガ、本日ハ幸  
ニ醫務局ノ説明員ノ御方モオイデニナツ

居リマスノデ、其ノ點ヲチョット承ッテ見  
イノデアリマス、ソレハ此ノ度ノ事變ニ於

キマシテ傷病兵ガ澤山歸還致シテ居リマス  
ガ、其ノ中デ結核患者ガ非常ニ多イト云フ

コトヲ聞クノデアリマス、是ハ私ハ唯巷間傳  
フル所ヲ聞イテ居ルノデアリマシテ、確カ

デアルカドウカ分リマセスガ、若シ萬一左  
様ナコトデアリマスト云フト、長期建設ヲ

シテ將來日本ノ國ガ世界ニ進出シテ行カウ  
ト云フ時ニ、此ノ次ノ時代ヲ作ル場合ニ於

テ相當考ヘナケレバナラスコトデアラウト  
思フノデアリマス、從ッテ其ノ結核患者ガ此

ノ度ノ歸還シマシタ傷病兵ノ中デ一體ドレ  
位ニナツテ居リマスカ、陸軍當局トシテモソ

レハ決シテ憂フベキデナイノデアリマスカ、  
或ハ相當考ヘナケレバナラスコトトシテ何

カ御研究ニナツテ居ルノデアリマセウカ、勿  
論我ガ國ハ統計ノ示ス所ニ依リマスト、結

核國デアッテ、例ヘバ「ピルケー」反應ヲ見

マシテモ、恐ラク九十七、八「パーセント」

反應ガ積極的ニ出ル、陽性ニ出ルト云フコ  
トヲ聞イテ居リマス、徴兵當時ニ於キマシ

テハ健全ナ體格ヲ持ッテ居ル者ガ、非常ニ急  
激ナ生活ノ變化ヲ來タシ、戦線ニ於テ激務

ニ服スル爲ニ潜在シテ居ルモノガ出テ來タ  
ト云フコトニ結果ガ相成ツタノデアラウト

思フノデアリマス、併シナガラソレニ致シ  
マシテモ、斯ウ云フ事變ノアツタ後ニ非常ニ

多クノ結核患者ガ傷病兵ノ中カラ出テ來ル  
ト云フヤウナコトハ、是ハ餘程考ヘナケレ

バナラスコトノヤウニ私ハ非常ニ心配致シ  
テ居リマス、此ノ點ヲ明カニ致シタイト思

フノデアリマシテ、私共ハ巷間ニサウ云フ  
コトヲ聞イテ居ル、唯傷兵保護院ナドニ

於キマシテモ其ノコトヲ非常ニ御心配ニナ  
テ、療養所ノ如キモ、結核患者ヲ療養スル

専門ノモノガ各所ニ出來ルヤウナコトモ聞  
イテ居リマス、醫務局ノ方ノ説明員ノ中カ

ラ詳細ニ互ッテ若シ御示ガ願ヘマスレバ、誠  
ニ有難イト思ッテ居リマス

○委員長(伯壽濤口直亮者) 速記ヲ止メテ

(速記中止)

○委員長(伯壽濤口直亮者) 速記ヲ始メ

テ……

○松本學者 御説明デ分リマシタノデアリ

マスガ、私ハ原因トシマシテハ、只今ノ御

話ノヤウニ激務ニ服スル、生活環境ノ變ル  
ト云フコトガ直接ノ原因デアラウト思フノ

デアリマス、併シナガラドウモ之ヲ相當重  
大ニ考ヘテ見マスルト云フト、徴兵検査ト

云フコトト、國軍ノ弱點ト云フベキコトガ  
關聯ガアルノデヤナイカ、即チ壯丁検査ト

シテ最モ健康ノ充實シタ立派ナ壯丁ヲ兵員  
ニ得テ、サウシテ之ヲ戰場ニ送ッテ此ノ結果

ヲ來スト云フコトニナリマスと云フト、是  
ハ一ツノ國軍ノ弱點デハナイカト思フノデ

アリマス、ドウモ將來ノ日本トシテ相當考  
ナケレバナラスノデアリマス、直接ノ原因

ハ只今ノ御話ノヤウデアリマセウケレドモ、  
之ヲ相當重大ニ考ヘマスと云フト、徴兵檢

査ト云フコトニモウ少シ御考ニナル點ガナ  
クテハナラスノデヤナイカ、モウ少シ此處

ヲ御検討ニナル必要ガ起ッテ來ルノデハナ  
カラウカト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、

此ノ度ノ兵役法ノ改正ノ要點ハ、大臣ノ御  
説明ニモアリマス通りニ、軍備ノ充實上ノ

必要デアリマス、是ハ此ノ非常時局ニ於テ  
國民ガドシナ犠牲ヲ拂ッテモ、ドシナ不便ガ

アリマシテモ、之ニ應ヘナケレバナラス義  
務ヲ持ッテ居ルノデアリマス、何處迄モ軍備

ヲ充實シテ、立派ナ兵力ヲ持タナケレバナ

ラヌノデアリマス、而モ體力智力ノ優秀ナ者ヲ採テ、即チ體位ヲ精選スルト云フコトヲ目的トシテ居ルト云フ御説明デアリマシテ、是モ其ノ通りデアリマス、併シナガラ私ハ考ヘマスノニ、此ノ非常時局ニ於テ兵數量ヲ非常ニ多ク要スルカラ、數量ヲ澤山採ル、而モ其ノ徵兵検査基準ヲ下ゲテ迄多數ノ兵ヲ採ルト云フコトダケヲ若シ萬一目的トナスト云フコトデアルト云フト、是ハ餘程御考ヲ要スルノデヤナイカ、私等モ考ヘナケレバナラヌノデヤナイカと思フ、ドウシテモ此ノ際體力智力ノ優秀ヲ期スルト云フ御説明ガアリマシヤウニ、體力ヲ充實シ、即チ其ノ質ノ立派ナ者ヲ採ルト云フコトニナラナケレバナラナイと思フノデアリマス、ソコデ私ガ御尋ネシテ見タイト思フコトハ、今日迄ノ徵兵検査ト云フモノデ、一體其ノ質ノ立派ナ者ガ採レルノデアリマセウカ、唯私ガ疑ヒマスノハ、一度ノ検査デ以テ、而モ僅カ一日ニ數時間、多數ノ壯丁ヲ検査官ガ検査サレルノデアリマスカラ、一度切りノ此ノ検査デ本當ニ健康ナル壯丁ガ得ラレル、兵士トシテ精選スルコトガ出來ラウカト云フコトヲ多少疑問ヲ持ツノデアリマス、時間ガアリマセウカヲ、私ハ是以上ニ御尋ネスルコトモ止メマ

シテ、時間ヲ節約致シマスガ、其ノ點ニ付テ何方當局ニ於テ御考ニナッテ居ルコトガアリマセウカ、私ガ考ヘマスノニ、苟モ立派ナ國軍ヲ組織スル以上ハ、モ少シ検査ヲ外ノ「フアクター」モ入レテ御考ニナルコトハ出來ナイガラウカ、即チ是ハ學校衛生ノコトモ關係ガアリマセウト思ヒマスガ、在學時代ニ於テ、小學校或ハ中學校等ニ於テ或時期ヲ期シテ、例ヘバ十歳前後デアリマストカ、或ハ十四五歳、體質ノ變化スル時ヲ期シテ、相當徹底ニ検査ラシテ、或ハ其ノ時ノ健康表トカ、健康手帳ノヤウナモノヲ持タセテ、ソレ等ノ時期ニ於テドシナ健康状態デアツカト云フヤウナコトヲ十分ニ徵兵検査ノ時ニ御檢定ニナルト云フヤウナコトモ一ツノ方法カモ知レマセウ、一度ダケノ検査ニ依ッテ伏シテ居リマス所ノ、嘗テヤツタ肋膜炎トカ、肺疾患ノ輕微ナ者ナドハ、治ッテ居ル場合ガアルト思フ、サウ云フ者ガ外見上身長ガ何尺何寸アツテ體重ガ幾ラ、胸圍ノ邊ノチヨットシタ診察デ以テ採用サレルト云フコトニ依ッテ斯ウ云フ風ナ結果ヲ來シタノデナカラウカト云フコトヲ心配致シテ居ルノデアリマス、ソレ等ノ點ニ付テハ何カ御考ガアリマスカ、其ノ點ダケヲ承テ置キマス

○政府委員(中村明人君) 只今ノ御質疑ニ對シマシテ先ヅ私カラ一言申上ゲマシテ、後ニ説明員カラ附加致サセマス、最初ノ御所論デアリマスル兵員ヲ多數採ルト云フコトハ、是ハ一定數ノ兵員ダケハドウシテモ採ラネバナラヌノデゴザイマシテ、一定數ノ兵員ハ幾ラ多クナッテモ必要ナモノハ採ル、併シナガラ之ヲ徵集スル上ニ於キマシテハ十分體格ヲ見極メマシテ、軍隊ニ入ツタガ爲ニ病氣ガ再發スルヤウナ、又質ノ惡イ者ヲ採ルト云フヤウナコトハナイヤウニ心掛ケテ居リマスコトハ、モウ日露戰後非常ナ注意ヲ拂ッテ、又問題視シテ居ル所デアリマス、即チ徵兵検査デ甲種合格トシテ立派ナ合格印ヲ押シテ、サウシテ軍隊ハ入レル、三箇月カ四箇月經ツト、胸部疾患トシテ之ヲ郷里ニ歸サンナラス、其ノ數ガ相當ニ大キイノデアリマス、平時ニ於テモ……是ハ由々シイ問題トシテ常ニ研究ヲ續ケテ來タコトデアリマシテ、何トカシテ是モ國家デ從來此ノ除隊スル胸部疾患者ヲ收容シテ療養シテヤラネバナラヌト云フヤウナコトガ段段ヤカマシクナリマシテ、數年前晴嵐莊ト云フ療養所ガ水戸ノ附近ニ出來マシテ、其ノ目的ニ供スルヤウニナツタノガ是ガ恐ラク最初ドラウト思フ、サウシテ今日ハ既ニ

十分擴張セラレテアルコトハ先程説明員ノ申シタ通りデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、軍ハ重大ナル關心ヲ有ッテ研究ヲ持續シテ來テ居ルノデゴザイマスルガ、ドウモ矢張り戰地ニ參リマスルカ又滿洲方面ニ寒イ冬ヲ二冬越スト云フコトニナリマス、此ノ疾患者ガ多イノデアリマス、現ニ私如キモ二箇年冬ヲ越シマシテ、彼ノ地デ兵員ヲ扱ツタノデゴザイマシタガ、隊ニ依リマシテハ病者ノ大部分ヲ此ノ胸部疾患デ占メテ居ルト云フヤウナ隊ガゴザイマシテ、非常ニ心配ヲシテ、有ラユル研究ヲシ、之ガ絶滅トイカナクトモ、減少ニ努メマシタノデアリマス、此ノ點ニ付テハドウゾ必死ニ軍ガ努力シテ居ルト云フ點ハ一ツ御安心ヲ願ヒタイト思ヒマス、併シナガラ依然トシテ完全ナル成果ヲ擧ゲナイト云フコトハ何處ニアラダラウト云フコトハ、私共モ其ノ缺點ヲ穿鑿シテ居ルノデアリマス、而シテ其一ツハ今御指摘ニナツタ徵兵検査ノヤリ方ガ惡イノデハナイカ、是ハモウズット昔カラ其ノ點ハ著意致シマシテ今日ニ及ンデ居ルノデアリマスガ、如何ニセム一定ノ時期ト一定ノ期間デヤルノデアリマスカラ、御説ノヤウニ、或ハ之ヲ數回ニ互ッテ小學校ノ卒業時ニヤル、中學校ノ中年デヤルトカ、

サウシテ検査ノ時ニヤルト云フヤウナ方法ヲ採ル方宜イカ、又ハ更ニモウ一層「レントゲン」アタリヲ活用致シマシテ、殆ド一年ノ過半ヲ掛ケテ検査ヲ實施スルガ宜イカト云フヤウナコトニ付テモ十分研究ヲ遂ゲテ宜イト思フコトハ、出來ルコトハ直チニ實施ヲシテ今日ニ來テ居ルノデアリマス、今日ニ於テ胸部疾患者ノ相當數アルト云フコトハ誠ニ残念ナコトデゴザイマシテ、此ノ點ハ又一面大キイ意味カラ政府ノ問題ト致シマシテ、國家ノ問題ト致シマシテ研究ヲ持續セネバナラヌカト思フノデアリマス、私カラ申上グルコトハ軍トシテノ心持ト、軍トシテノ今迄此ノ種疾患ニ對シマスル所ノヤリ來ツタ、其ノ大要ダケヲ御話シ致シマシテ、尙専門家ノ之ニ關スル所見ヲ附加ヘサセルヤウニ致シタイト思ヒマス

○説明員(鎌田調者) 只今ノ御質問ニ對シ

テ御答ヘ申上ゲマス、徴兵検査ノ實施ノ主眼デゴザイマスガ、御説ノ通り一回ノ検査デ總テノ疾病ヲ發見スルト云フコトハ至難デゴザイマス、從ヒマシテ陸軍ノ徴兵検査ニ於キマシテハ、結核性疾患ヲ發見ヲスルト云フコトガ、其ノ検査ノ主眼ニ指摘サレテ居リマス、是ガ爲メ與ヘラレマシタ時間ヲ最大限ニ活用致シマシテ、各種ノ理學的檢

査ヲ行ヒマスル外ニ、壯丁ノ結核浸潤ノ狀況ヲ豫メ檢討スルト云フ意味ニ於キマシテ、「マンツ」反應ヲヤラシテ居ル所モアリマス、又場所ニ依リマシテハ時間ヲ割キマシテ略檢査ヲ致シマシテ、結核菌ノ發見ニ努メテ居ルト云フ所モアリマス、斯ノ如ク致シマシテ、體格等位ヲ決定シテ入隊サセルノデゴザイマスガ、入隊時ニ於テハ三日間連續ノ細密身體檢査ト云フモノヲ實施致シマシテ、徴兵檢査ヲ第一線、入營時ニ於ケル細密檢査ヲ第二線ト致シマシテ、結核性疾患ノ排除ニ努メテ居ル次第デアリマス、斯ノ如ク致シマシテモ尙且潛在性ノ結核菌ヲ持ッテ居ル者ガゴザイマス、實例ヲ申上ゲマスルト、陸軍ニ於ケル入隊兵ノ某師團ニ於ケル檢査成績ニ於テ「パーセント」ノ結核菌保有者ヲ持ッテ居ルト云フコトガ證明サレテ居リマス、從ッテ斯ノ如ク結核菌ハ國民ノ全體ガ有ッテ居ルト云フ風ニモ思ヒ得ル狀況ナノデゴザイマスノデ、入營後ニ於キマシテハ保育ノ完成ト云フコトニ努力ヲシテ居リマス、詰リ身體並精神的ノ故障ヲ持ッテ居ル者ヲ早期ニ發見致シマシテ、ソレニ對スル所要ノ保護對策ヲ加ヘマシテ、或一定期間ノ後ニハ健康省ト同ジ線ニ到達シ得ルヤウニ、兵營起居ノ間ニ於キマシテ教育

練成ニ若干ノ手心ヲ加ヘマシテ、保育ニ努メテ居ルノデゴザイマス、其ノ外結核性疾患ヲ軍隊内ヨリ芟除スルト云フ意味ニ於キマシテ、特ニ入營兵ガゴザイマシタ當初ノ時期ニ頻回ニ略痰ノ檢査ヲ實施致シマシテ、努メテ早期ニ之ヲ發見スル處置ヲ講ジテ居リマス、是ト同時ニ體力檢査ト云フモノヲ實施致シマシテ、體格ハ勿論活動力、耐久力乃至精神力ノ檢査ヲ行ヒマシテ、弱兵ヲ摘發シ、之ニ適當ナ保護ヲ加ヘルト云フ處置ヲ講ジテ居リマス、斯ノ如ク各般ノ現在ノ醫學ニ於テ實施シ得ル殆ド總テノモノヲ軍隊内ニ於テ施シテ居ルノデゴザイマスケレドモ、前回申シマシタヤウニ結核性疾患ノ増加ト云フモノハ、壯丁ノ身體檢査カラ歸納致シマシテモ、逐年増加ノ狀況ニアルノデゴザイマシテ、是ハ國民衛生ノ向上ト云フコトニ關シマシテ、將來非常ニ關心ト之ニ對スル對策ヲ講ジナケレバイカヌモノデアラウト痛感シテ居リマス、是ガ爲ニハ色々ノ方法ガ考ヘラレルノデゴザイマスルノデ、特ニ先刻御意見ノゴザイマシタ幼時ヨリ壯丁適齡ニ至リマスル迄各年代ニ於キマス本人ノ健康狀態ヲ精査致シマシテ、ソレニ基イテ徴兵檢査ヲ實施ヲスルト云フ風ナ所謂國民ノ體力管理ト云フコトモ

一ツノ方法デハナカラウカト考ヘマス、大體以上デ説明ヲ終リマス  
○松本學君 詳シク御説明下サツテ能ク分リマシタ、又軍當局ニ於テ熱心ニ此ノ點ニ付テ御研究ニナツテ居ル、誠ニ有難ク存ジマス、私ハ此ノ兵役法改正案ヲ見マシタ時ニ、極端ナコトヲ申サウデアリマスガ、只今私ノ申上ゲマシタ此ノ徴兵檢査ノ方法ヲ如何ニスルカト云フコトガ一番ノ大事ナ問題デアリヤウニ私ハ感ジタノデアリマスガ、或ハ短期兵役ノコトヲ廢止スルトカ、或ハ在學徵集延期ヲ短クスルトカ云フヤウナコトハ、是ハ此ノ時局ニ於テモウ當然ナコトデ、大シタ問題デナイヤウニ私ハ考ヘテ居リマス、ドウシテモ將來ノ國軍ノ立派ナモノヲ作ルト云フ上ニ於テハ、徴兵檢査ヲ一番重點ニ置イテ御改正ニナルト云フコトガ重大ナ問題ノヤウニ思ツタノデアリマス、陸軍ニ於テ非常ニ御心配ニナツテ居ルノデアリマスガ、私ハドウシテモ是ハ唯一回ノ檢査、或ハ入營時ニ於ケル再檢査ト云フ位ナ時期ノ近イ間ニ於テ檢査ヲ二度繰返サウナコトデハ十分デナイノデ、ドウシテモ體力關係デアリマスツカ、其處迄極端ニ行キマセヌデモ、二三回ノ體格檢査ヲシタ其ノ材料ヲ以テ壯丁檢査ヲ爲サルト云フ

ヤウナ方法ヲ御研究ガ願ヒタイ、陸軍ダケ  
デ非常ニ御考慮ニナツテ居ルヤウデアリマ  
スケレドモ、是ハ文部省トモ非常ニ關係ノ  
アルコトデアリマスシ、厚生省トモ關係ノ  
アルコトデアリマスノデ、ドウカ將來厚  
生省、文部省ト十分ノ御協力ヲ願ッテ完全ナ  
徴兵検査ヲ御實施ニナツテ、立派ナ國軍、精  
銳ナ國軍ヲ作ルヤウニ御盡力ヲ願ヒタイコ  
トノ希望ヲ申述ベテ、私ノ質問ヲ終リマス

○三井清一郎君 關聯シテ居リマスノデ……

○委員長(伯爵溝口直亮君) チョット待ッ

テ……政府委員ノ答辯ガアリマス

○政府委員(中村明人君) 只今御指摘ノ御  
所見ハ誠ニ御尤ナコトデアリマシテ、今我  
ガ陸軍ニ於キマシテモ總テノ方面ト連繫ヲ  
致シマシテ、此ノ検査方法ニ付テハ萬全ヲ  
期シタイト云フノデ、關係各當局ニ於テハ  
研究ヲ重ネテ居リマス、勅令竝ニ省令ノ範  
圍デ出來ルノデゴザイマシテ、十分御期待  
ニ副フヤウニ現在ニ於テモ既ニ精々努力シ  
テ居リマス、此ノ點御諒承ヲ願ヒマス

○委員長(伯爵溝口直亮君) 三井君

○三井清一郎君 關聯シテ居ルコトデアリ

マスガ、松本委員ノ御意見ハ私トハ同様ノ  
意見ヲ持ッテ居ラレルノデ、既ニ私モ一回ノ  
徴兵検査デ宜イカト云フ質問モ致シタ次第

デアリマス、是ハ理論トシテハ宜イガ、實  
行難ダト云フ御答ヲ得テ居ルガ、只今政府  
委員ノ御答辯デハ成ルベク一ツ研究ヲシヨ  
ウト云フコトデアリマスカラ結構デアリマ  
ス、ドウモ徴兵終結處分云々ト云フヤウナ  
コトハ是ハ任意的ニヤルコトデ、法律ハ人  
ガ定メタコトデスカラ、ドウニデモ改正出  
來ルコトデアリマスカラ、根本ノ健全ナル  
軍隊ヲ作ルト云フ根本精神ニ基イテ一ツ  
御研究ヲ願ヒタイト思ヒマス、デ是ト同  
時ニ私ハ文部當局ニ希望的ニ申上ゲテ、  
御答辯ヲ希望スル譯デハアリマセスガ、ド  
ウモ多年此ノ試験地獄、是ガ爲ニ國民ノ健  
康ヲ害スルト云フ議論ハ貴衆兩院デ度々問  
題ニナツテ、文部當局デハ相當御注意ヲ御拂  
ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、未ダ此ノ試  
験ノ爲ニ健康ヲ害スルト云フ状態ガ繼續シ  
テ居ルト私ハ信ジテ居ル、殊ニ甚ダシイノ  
ハ小學校ノ一年生ニ迄モ毎日宿題ヲ與ヘテ  
夜寝ル時間モ割イテ其ノ宿題ヲヤッテ居ル、  
誠ニ私ハ驚キ入ッタ、小學校ノ一年生ニ假名  
ノ綴リ方、或ハ算術ノ數ノ算ヘ方、斯ウ云フ  
コトニ付テノ宿題迄與ヘテ居ル、サウ云フコ  
ト迄ヤラスデ宜イデヤナイカト我々ハ考ヘ

マスガ、學校デハ斯ウヤラナケレバ、中學  
ヘ競争デ入レナイ、自分ノ小學校カラ中學  
校ヘ入ル「パーセンテージ」ガ減ルト云フヤ  
ウナ、唯此ノ國民體育トカ、サウ云フコト  
ノ願慮ナクシテ、先生ハドウカシテ自分ノ  
受持ノ子供ヲ中學ヘ餘計入レタイ、ソレニ  
ハ矢張り一年生カラヤッテ行カナケレバ後  
レルト云フヤウナ、極ク單純ナ考デヤッテ居  
ルヤウニ考ヘルノデアリマス、是ハ餘程御  
注意ニナラヌト、我々ハ七ツ八ツノ小學校  
ノ一年生位ハ殆ド學校ヘ出テ唯運動的ニ指  
導シテ、假名ノ一字モ覺エレバ宜イノダト  
思ッテ居ル、ソレデ結構デス、英國流ニ一  
二年ノ間ハモット運動ヲ盛ニシテ、將來學問  
ヲスル體力ヲ作ルノダト云フ意味デ小學校  
二年ハヤッテ貫ヒタイト思フノデアリマス  
ガ、誠ニ子供ガ總テ神經過敏デ唯小懶巧ニ  
カルニ過ギナイ、ソレデ大キナ人物モ出來  
ナケレバ、又健康ナ國軍モ出來ル譯ハナイ  
ト思フ、ドウモ此ノ試験地獄ノコトハ度々  
問題ニナリマスガ、我々ハ是非一ツ視  
學官等ヲ獎勵ナサツテ……先ヅ中學校ヘ入  
ル爲ニ是等ノ無理ナ宿題ヲ與ヘ、殊ニ甚ダ  
シイト考ヘマスノハ、正月ノ休ミニシロ、  
夏ノ休ミニシロ、悉ク毎日ノ宿題ヲ持ッテ居  
ル、ソレ等ニ付テ餘程將來十分ノ御研究ヲ  
御願ヒシテ置キタイト思ヒマス

○委員長(伯爵溝口直亮君) チョット速記

(速記中止)

○委員長(伯爵溝口直亮君) ソレデハ午後  
一時半カラ開會致シマス、其ノ際三大臣來  
ラレマスカラ、引續キマシテ御質問ヲ願ヒ  
マス

午前十一時四十八分休憩

午後一時三十二分開會

○委員長(伯爵溝口直亮君) ソレデハ午前

ニ引續キマシテ委員會ヲ開キマス

○子爵野村益三君 陸軍ノ方ニ御尋ネ致シ  
マスガ、此ノ表デスネ、之ヲ先刻頂戴スル  
ヤウニ申シ置イタシマスガ、御持合セゴザ  
イマスガ、此ノ徴兵検査ノ成績表……ソレ  
ヲ大臣ニ見テ戴キタイトシマスガ……態々三  
大臣ニ御出席ヲ願ッテ甚ダ恐縮ニ存ジマス、私  
ハ茲ニ三ツノ希望ヲ述ベテ、三大臣ノ一  
致シタ御答ヲ得タイト思フ、ソレニ付キマ  
シテハ聊カ本委員會ニ於ケル經過ヲ順序ト  
シテ申述ベルノガ宜カラウト思フ、委員諸  
君ニ於カレテモ甚ダ御迷惑ト存ジマス、デ  
スカラ、簡略ニ申述ベタイト思ヒマス、例ノ  
兵役法中改正案ガ付託ニナリマシテ、私ハ  
最初ニ斯ウ云フ質疑ヲシタ、第一ハ、本法  
ノ改正ハ戰時兵時兩統制ニ適應スルモノデ  
アラウト思フ、第二ハ、當局ハ學制改革ヲ

考慮ノ中ニ入レラレタノカドウカ、斯ウ云フ質問ヲ發シタ、サウシタ處ガ、之ニ對シテハ機宜ノ御答ヲ得テ、其ノ點私ハ満足シタ、其ノ後同ヲ重ヌル間、關係當局ノ御話竝ニ我々トノ質疑應答ヲ顧ミテ見ルト、私ハ遺憾ノ點ガアルコトヲ感ズル、第一ハ、人竝ニ人ノ能力、モット限局的ニ申セバ、只今御手許ニ御覽ニ入レタ壯丁検査ノ成績ニ付テ、ドウモ我々ガ思フヤウニ、當局者ノ之ニ對スル關心竝ニ研究ト云フモノガドウデアラウカ、一口ニ言ヘバ、當局者ノ之ニ對スル關心ト研究ト云フモノノ程度ガ、私共ノ考ヘテ居ル程度迄ニナッテ居ラナイト思フ、其ノ點遺憾ヲ感ジタ、第二ハ、ドウモ關係當局ノ間ニ十分ノ了解ト云フモノガ附イテ居ルノカドウカト云フ點ニ付テモ、實ハ未ダニ私ハ疑義ヲ持ッテ居ル、此ノ點甚ダ遺憾デアルト云フコトヲ此ノ前モ申上ゲタ、ソコデ愈、改正案ノ内容ニ入ッテ、質疑應答ヲ重ネタノデアリマスガ、外ノ點モ私ハ御無理御尤ト申サス、併シナガラ例ノ短期現役制度撤廢ニ付テハ、私ハ頗ル合點ガ行キ兼ネル、改正サレタ、撤廢サレタ理由、ソレカラ之ガ教育界ノ被ルベキ影響、其ノ影響ニ對應スル對策、對案ト云フモノニ付テモ、實ハ私ハ満足セナイ、甚ダ極端ナコト

ヲ申シテ、當局ガ御困リニナッタと思フノデスケレドモ、未ダニ釋然カラザルモノガアル、ソコデ私ハ昨夜モ隨分考ヘタ、ドウ此ノ局面ヲ打開シタラ宜カラウト云フコトヲ考ヘマシテ、結局先列申シタヤウニ、關係大臣列席ノ上ニ、私ノ希望ヲ申述ベテ、ソレニ對シテドウ云フ御意見デアアル、御一致ノ御意見ハドウダト云フコトヲ承テ見タイ、斯ウ云フコトニナッタ、デアリマスカラ、ドウゾ其ノ思召デ、ヨク御考ヘ下スツテ、若シ御協議ガ必要ナラバ、御協議下スツテ、サウシテ御答辯ヲ願ヒタイ、斯ウ思フ、其ノ第一點ハ、詰リ此ノ表ノコトデアリマス、私ハ此ノ表ヲ請求シテ拵ヘテ貰ヒマシタケレドモ、此ノ中ニハ、日本ノ有ラユルコトガ包含サレテ思ルト思フ、丁度扇子ノ要ト思ヒマス、日本國中ノ種々相ガ、此ノ中ニ含まレテ居ル、斯ウ思フ、デスカラ、其ノ要ヲ辿ッテ末廣ガリニ行ッタナラバ、日本ノ社會ノ種々相ト云フモノノ研究ノ手段モ生ミ出サレ、從テ是ガ解決ニモ非常ニ役ニ立ツ、斯ウ信ジテ居ル、御承知ノヤウニ、我が政府デハ毎年帝國統計年鑑ヲ公布サレマス、御承知ノヤウニ隨分厚ク、三百六十何頁アリマス、併シナガラ要ハ其ノ前ニアル略説ノ、アレハ三十五六頁アリマスカ、

其ノ三十五六頁ノ中ニ網羅サレテ居ル、言葉ヲ換ヘテ言フト、日本ノ國勢ト云フモノハ、若シ具眼ノ士ガ此ノ三十六頁ヲ見タナラバ、日本ノ國勢ハ分ル、從ッテ之ニ對スル對策ト云フモノハ立ツ、唯人ガ餘リ注意シナイ、心眼ヲ開イテ見ナイカラ、不十分ナ點ガアリマスケレドモ、具眼ノ士ガアレヲ見マスレバ、スツカリ日本ノ國勢ガ三十六頁ノ中ニ盡キテ居ル、ノミナラズ、之ニ對スル對案ト云フモノガ自カラ心底ニ浮ブ、然ルニ此ノ表ハドウカト云フト、唯一頁、此ノ頁ノ中ニ日本ノ社會ノ種々相ヲ網羅サレテ居ルト私ハ思フ、デスカラ、之ヲ研究シテ、サウシテ色々ノ對策ヲ立テ、次イデ之ガ施設ニ及ブト云フコトハ、ドウシテモ是ハ爲スベキコトデアルト思フ、又之ヲシナイノハ非常ナ不經濟ナ話、所謂天來ヲ損フ、斯ウ思ヒマス、デ私ハ非常ニ之ヲ見テ驚イタコトガアル、又之ニ連レテ委員カラ重要適切ナル御質疑ガ出タ、ト申シテハ一寸御分リニナラスカ知レヌ、之ヲ唯御覽ニナッテサウシテ其ノ場ニ色々ナコトヲ御考ニナルト云フコトハ無理カモ知レナイ、例ヘバアノ……重複シテ甚ダ恐縮デスガ、ドウモ大臣ニ於テハ今迄御出席ナラヌカラ、已ムヲ得ズ御話シスルノデス、斯ウ云フ驚クベキ

事實モ實ハ發見シタ、ソレハ毎年我が國デハ百萬ソコノ人ガ生レマス、男デスヨ、男百萬ノ人ガ生レル、ソレガ蝶々花ヨト周到ナル保護ノ下ニ生ヒ立チマス、ソレガ二十歳ニナル、壯丁ニナル、而シテ所謂壯丁検査ヲ受ケル、其ノ場合ニ初メ百萬幾ラ生レタ者ガドレダケガ國家ノ御役ニ立ツベキ壯丁トシテ殘ルカト考ヘルト、半分一寸シカ殘ラナイ、是ハ實ニ驚クベキ事實、サウ云フコトヲ今迄言ッタ人ハナイ、之ヲ見テ熱考ヘテ見マス、サウ云フコトニナル、是ハ實ニ驚クベキモノデ、私ハ初メテソレヲ發見シタ、ソレカラ尙此ノ徵兵猶豫ノ延期者ノ數、徵集延期、是ガ十年以前ト比較シテ見ルト、三倍ニナッテ居ル、是モ實ニ驚クベキ事實、斯程迄ニ徵兵猶豫者ガ多ク、又激増シタト云フコトハ、是ハ色々ノ方面カラ見テ、憂フベキコトダシ、又斯ウ云フ儘ニナッタト云フコトハ、實ニ遺憾ニ堪ヘナイ、ソレカラ起ル問題ハ何カト云フト、成ルベク學校教育、殊ニ高等ノ教育ヲ受ケタ者ハ一度鐵砲ヲ擔ガセル、此ノコトハ此ノ前ニ文部大臣ノ前デモ御話シタ、一度ハ入營、營門ヲ潛ラセル成ルベク多ク潛ラセル、是ハモウ國防上カラ言ッテモ或ハ人格、能力養成ト云フ上カラ言ッテモ非常ニ適切ナ

コトト思ヒマス、私ハ此ノ前モ申シタ、良キ青少年ハ良キ兵隊、良キ兵隊ハ體テ良キ國民デアリマス、有爲ノ青少年ハ體テ良キ有爲ノ兵隊、有爲ノ兵隊ハ體テ有爲ノ國民デアル、又サウ仕上ゲナケレバナラス、然ルニ學校ニ入ッテ、或ハ外國ニ居ッテ其ノ他ノ事情ニ依ッテ此ノ大事ヲ義務ヲ猶豫サレナケレバナライ、其ノ數ト云フモノハ十年ノ間ニ三倍ニ激増シタト云フコトハ、是ハ私實ニ考ヘナクチャナラスコトト思ヒマス、殊ニ今御話シタヤウニ、高等諸學校ヲ卒業シタ者ハ社會ノ上流ニ立ツ、自分ノ手下ヲ指揮命令スル、指導スル立場ニ居ル、サウ云フ者ガ表ヲ見テモ入營スル「パーセント」ト云フモノハ多クナイ、ノミナラズ其ノ中ニハ故意ニ入營ヲ避ケテ居ル者モ無イデモナイ、是ハ高等教育ノ上カラ言ッテモ非常ニ重大ナ問題デ、是ハ是正サレナケレバナライ、併シ今日ノ狀態ハドウカト云フト、我々ガ大學ノ卒業生ニ向ッテ、オ前達ハ國家ノ義務ニ奉ズル爲ニ入營シロ、斯ウ言ッテ聲ヲ勵マシ、獎メルガケノ勇氣ガアルカ、文部大臣ハ大學ノ卒業生ニ向ッテヒタムキニ入營ヲ訓示サレ、是ダケノ勇氣ガアルカト云フト、私ハナイ、ソコドドウ云フ方法ヲ講ジタナラバ教育ヲ受ケタ者、殊

ニ高等ノ教育ヲ受ケタ者ヲ成ルベク多ク兵營ノ門ヲ潛ラセルヤウニシタラバ宜イカト云フ問題ニ到達スル、ソレガ此ノ表ニ出テ居ル、サウ云フヤウナ譯デ幾ラモアリマス、處ガ之ニ對スル所ノ御答辯ト云フモノハ公平坦々水ノ如シ、表トシカ御覽ニナッテ居ラナイ、私ハ非常ニ遺憾ナコトト思ヒマス、デ私ノ希望スル點ハ、此ノ壯丁検査ノ成績ヲモット研究サレ、サウシテ之ヲ活用セラルベキコトヲ望ム、勿論此ノ表ヲ指シテ活用スル場合ニ於テハ、是ハ軍部當局バカリデハイケナイ、文部當局モ力ヲ協セ、殊ニ體位ノ向上ノ如キニ至ッテハ厚生大臣數層ノ力ヲ注ガレナケレバナラス、ソコデ今御尋ヲ申上ゲルコトハ、此ノ壯丁ノ検査ノ成績ニ關シテ、ヨリ以上攻究ヲサレテ、之ヲ活用サレナケレバナライト思フガ、御所見如何、是ガ第一問デアリマス、ソレカラ第二問ニ移リマスガ、端的ニ申スト斯ウナル、教育審議會ノ委員ニ更ニ軍部ノ適當ナ人ヲ御推薦ニナッテ欲シイ、斯ウ云フコトデアリマス、教育審議會ノ沿革並其ノ實質ト云フモノハ今諄々シク申上グル迄モナイ、何故サウ云フコトヲ申スカト云フトデスネ、我々苦イ經驗ガアル、頗ル苦イ經驗ヲ最近ニ於テ得タノデアリマス、ソレハ例

ノ青年學校義務制ノ問題デアリマス、サウシテ其ノ後ニ青年學校案ト云フモノヲ我々ハ審議シタノデアリマス、處ガ其ノ青年學校ノ義務制ト云フコトニ付テ教育審議會ニ附議サレナイ、政府ノ方面、端的ニ言ハバ軍部ト文部ト此ノ兩當局者ノ所謂諒解ノ下ニデセウ、直グソレヲ決メテ、サウシテ後カラ青年學校案ヲ付議サレタ、當時總會デソレガ問題ニナッタ、文部大臣責任論迄及ンダ、サウ云フコトナラ何ニモ教育審議會ト云フモノヲ事々シク設ケテ、畏キ上諭迄モ拜シテ我々ガ討議スル必要ハ無イ筈ダ、此ノ重大ナ問題ヲ會ニ掛ケズ關係者ダケデ決メテシマヒ、後デ青年學校ヲ審議シロト云フヤウナコトハ、是ハ本末顛倒、輕重ヲ顧ミザル所爲デアルト云フ論ガ盛デアッタ、處デ實際的ノ問題ニシマス、先ヅ以テ小學教育ノ義務年限延長、是ハ數十年來ノ輿論デアリマス、此ノ問題デ、其ノ内閣方迭々爲ニ其ノ職ヲ去ッタ大臣サヘアル、處ガモウ輿論トシテ常識的ニ考ヘテモ、義務教育年限延長ヲ定メテ、サウシテ青年學校ノ問題ニ移ルノガ至當ナンデアル、ソレヲ今御話シタヤウナ譯デ青年學校ノ義務制ヲ決メテヤッタ、サウシテ青年學校ノ問題ヲ付議シテ其ノ後ニ

小學校ノ問題、只今デ申セバ國民學校ノ問題ヲ我々ハ審議シナケリヤナラスコトニナッタ、ソレデ非常ニ我々ハ苦地ニ陥ッタ、當然義務教育年限ガ延長サルレバ青年學校豫科二年ト云フモノヲドウカシナケレバナラス、對立的ニ存スルト云フコトハ是ハ甚ダ專理ヲ解サナイ問題デ、此ノ缺陷ヲ補フ爲ニ暫ク青年學校ノ豫科ヲ義務制ニシタラ宜カラウト云フ論者モアリマシタ、アリマシタケレドモ、大體ニ於テハソコニ矛盾ガ生ズルノデ甚ダドウモ我々ハ苦境ニ立ツタ、是ハ議決ニハ現レテ居リマセヌガ、大勢ハ、國民學校ノ義務年限ガ延長サレタ曉ニハ青年學校豫科二年ノ義務制ハ廢スル、廢シタ方ガ宜イ、斯ウ云フ改正ニハナッタケレドモ、政府モ失態デス、折角出シタモノヲ文政審議會ニ掛ケタ爲ニ、ソレヲ又取消サナケレバナラスト云フヤウナ立場ニナリ、政府ニモ氣ノ毒デスガ、アリヤウハサウナッテ居ル、ソレカラ近頃ハ兵役關係ガ教育ノ問題ニナッテ來タガ、是ハモウ是カラモ問題ニナリ得ル、既ニ從來ニモ審議上困難ヲ呈シタ事實ガアル、ソレハ御承知ノヤウニ中學校ノ修業年限ハ五年、サウシテ上級學校ノ連絡ハ四年カラデ宜イ、四年ノ學力ヲ以テ試験スル、斯ウ云フノガ現在ノ規定デアル、此ノ四年、五年ノ問題ハ何年トナ

ク議論ヲ闘ハサレタ問題デアル、大勢ハ、  
中學教育ニ理解ヲ持チ同情ヲ持ッテ居ル者  
ハ中學校ノ修業年限ハ五年、サウシテ上級  
ニ聯絡スベキモノハ其ノ五年ノ課業ヲ經タ  
者、途中カラ、四年カラ上級學校ニ聯絡サ  
セルト云フコトハ中學教育ヲ破壊スルモノ  
デアル、是ガ多數ノ意見デアリマス、然ル  
ニ今度ノ此ノ提案ヲ考ヘテ見ルト、斯ウ云  
フ論者ガ出テ來タ、我々ハ修業年限ノ短縮  
ト云フコトヲ希望スル、處ガ兵役ガ一年殖  
エテ二年ニナツタ、サウスルト云フト何處デ  
補ヒヲ付ケルカ、即チ現在ノ制度、中學校  
ノ課程ハマア五年デモ宜イガ、上級ヘノ聯  
絡ハ依然四年トスルガ宜シイ、斯ウ云フ論  
者ガ擡頭シテ來タ、我々カラ見レバハ逆  
轉デアリマス、サウ云フ論サヘ生ジテ此ノ  
審議ニ紛亂ヲ呈シタ、ナカノ是ハムツカ  
シイ、ソレト申スノモ、私ハ矢張りサウ云  
フヤウナ事蹟ニ徴シテ見テモ、軍部ト文部  
當局ト云フモノガ本當ニ理解ヲシ合ヒ、共  
ニ手ヲ取ッテ、手ヲ握ッテ教育ノ問題並ニ軍  
隊ノ問題ヲモ考究スベキモノダ、斯ウ信ズ  
ルノデス、過去ノサウ云フヤウナ悲シムベ  
キ事象ヲ生ジタノモ、今日我々ノ思フヤウ  
ニ軍部ト文部當局ト云フモノガシツクリ行ッ  
テ居ナイセイデアル、斯ウ私ハ斷ズル、ソ

コデ差向キノ問題ハ、重要ナル事項ヲ研究  
調査シテ居ル所ノ教育審議會デアリマスカ  
ラ、其ノ教育審議會ニ軍部カラ更ニ人ヲオ  
出シニナルコトヲ望ム、私ハ陸軍デ言ヘバ、  
教育總監自ラ出馬サレタ方ガ宜イト思フ、  
併シ今御承知カモ知レマセヌガ、委員ノ數  
ハ滿員デアル、マサカ教育總監ヲ臨時委員  
ニ任命スルト云フコトモ是モ無理カモ知レ  
ナイ、其ノ事ニ付テハ私ハ申サヌ、陸軍ノ  
相當ノ人ヲ、又海軍ノ然ルベキ人ヲ更ニ教  
育審議會委員ニ推薦サレテ、能ク我々  
ト膝打交ヘテ教育問題ヲ軍部ノ方ニモ支障  
ナイヤウニ、教育ノ方面ニモ阻害ヲ受ケナ  
イヤウニ、ソコデ協調審議スベキモノダト  
斯ウ私ハ思フ、カルガ故ニ繰返シマス、  
教育審議會委員ニ軍部ノ方面カラ更ニ委員  
ヲ推薦サレルコトハ必要ト思フガ、御考如  
何、ソレガ第二問デアリマス、ソレカラ終  
ヒノ第三問ハ斯ウ云フノデアリマス、此ノ  
度我々ガ平生推奨シテ居リマシタ廣瀨厚生  
大臣ハ、十四年度ノ豫算ニ人口問題研究所  
ニ對スル豫算ヲ御提案ニナツタ、非常ニ結構  
ト思ヒマス、私ハ、平生推服シテ居ル廣瀨  
大臣ノ此ノ明敏ナル御考ニ更ニ敬服スルモ  
ノデアリマスガ、私ハ之ヲモット擴充シテ實  
績ヲ擧グルヤウニシタイ、斯ウ思フ、豫算

八十萬圓ト云ヒマス、其ノ外ニ之ニ關聯シ  
テ居ル豫算ニハ、人口問題調査會ニ一萬幾  
ラト云フ金額ヲ補助サレテ居ル、是ハ廣瀨  
厚生大臣ノ人口問題ニ付テノ素晴シイ御施  
設、ソレハ非常ニ私ハ其ノ勇氣ニハ數賞措  
カナイ、誠ニ機宜ニ適シタ措置ト思ハレマ  
スガ、實ハ是デハ足ラナイ、僅カ十萬圓ノ  
金デ設備ヲモシ、重要ナル……殊ニ此ノ事  
變後ノ關係事項ヲ研究スルト云フコトハ、  
是ハ誰ガ見テモ不足ナノデアル、此ノ席デ  
申シタコトガアリマスガ、セメテ三十萬圓  
位奮發サレテ、サウシテヤラレタラドウダ  
ラウカト云フコトモ此ノ席デ申シタコトガ  
アル、要スルニ人口問題研究所ノ設置ハ非  
常ニ政府トシテハ大出來デアル、アルガ、  
現在ノ我々ノ承知スル範圍デハ足ラナイ、  
モット擴大サレテ、擴大サレタバカリデハイ  
ケマセヌ、サウシテ實績ヲ擧ゲラレルヤウ  
ニシタイ、斯ウ云フモノガ私ノ終ヒノ希望  
デアリマス、序デニ、ドウモ御迷惑カモ知  
レマセヌガ、少シ申添ヘテ置キタイ、由來  
我々ノ此ノ人……人ノ能率、延イテハ大キ  
ク云ヘバ人口問題ニナリマスガ、廣義ノ人  
口問題、ソレニ對スル關心並ニ研究ト云フ  
モノガ見ルベキモノハ無い、デ私ハ平生斯  
ウ云フコトヲ考ヘテ居ル、實ニ我方日本ト

云フ國ハ仕合セナ國ダ、其ノ仕合セナ國ト  
云フ其ノ理由ノ一ツハ、男ト女トノ割合ト  
云フモノガ平衡ヲ得テ居ル、是ガドノ位此  
ノ我が國ニ取ッテ仕合セカ分ラナイ、デ事新  
シク申ス迄モアリマセヌガ、女百人ニ對ス  
ル男ノ割合ト云フモノハ百一ナンド、斯ウ  
云フヤウナ國柄ハ世界ニ無い、臺灣、朝鮮  
ヲ見テモ百四、支那ノ如キハ殆ド言フニ足  
ラナイ、「ヨーロッパ」デ先ヅ平衡ヲ得テ居  
ルト云フノガ「スエーデン」、「ノルウェー」  
ヤ「オランダ」位デセウ、果セル哉、サウ云  
フ國デハ誠ニ日本人ト能ク似テ居ル、我々  
ガ外國ヲ廻ッテ一番愉快ナノハ北歐ニ行ッ  
時、「デンマーク」カラ「スエーデン」、「ノル  
ウェー」ニ行ッタ時程愉快ナ事ハ無い、マア  
サウ云フヤウナ状態デアリマスガ、併シ此  
ノ男女ノ平衡ヲ得テ居ルト云フコトニ付テ、  
是ハ實ニ日本ノ仕合セダト云フコトハ、私  
ハマダ外ノ人カラ聞カナイ、私ハ、教育  
家ナドハ之ヲ申ナケレバナラヌト思フ、  
ナゼデセウ、兩性ノ平衡ヲ得テ居ルカラ結  
婚ガ容易ナンド、結婚ガ容易デアルカラ、  
多クノ人が家庭ヲ造ル、家庭ガ造ラレバ  
其處ニ佛壇ナリ神棚ナリガ置カレル、ソコ  
ニ家族ト云フ觀念ガ出、皇室ヲ尊ブト云フ  
感じガ生レル、所謂國體ノ精華ト云フモノ



ヲ感得スル、是ガドレダケ日本ノ國民ニ影響シテ居ルカ私ハ分ラヌト思フ、ソレニサウ云フコトヲ説イタ教育者モ無イ、倫理家モ無イ、實ニドウモ其ノ點ハ有難イノデア、併シナガラ、段々生活難ガ殖エテ、サウシテ職業戦線ナドニモ女ガ段々出テ行ク、外國ノヤウニソレガ爲ニ家庭ト云フモノハ破壊セラレ、家庭ニ重大ナル影響ヲ及ボサナイカト云フト、ソレハ或部分ニハ餘程影響ヲ及ボシテ居ルモノガアリマセウガ、大體ニ於テソシテ憂フルコトハナイ、此ノ家庭ト職業ト云フ關係カラ見マス、先ヅ女教員ノ例ヲ取ツテ見マス、是ハ十年前ト今ト餘リ變ラナイ、男ト女ノ割合……女ノ割合ハ男ノ半分、サウ云フ率デ十年前ト今ハ變ラナイ、職業戦線ヲ云ツテモ眞面目デ永續スルノハ女教員デアリマセウガ、其ノ方面カラ云ツテモサウ云フヤウナ割合デ、家庭ヲ破壊スルトカ、ソレガ爲ニ妙ナ考ヲ起スト云フヤウナコトニハ到ラナイ、大變仕合セナコトダ、餘談ニナツテ恐レ入リマスケレドモ、近頃野球ガ非常ニ流行ル、神宮野球場ナカニ行ツテモ非常ニ婦人ガ目ニ付ク、是ハ隨分婦人ノ割合ガ多イト思ツテ統計ヲ取ツテ見ルトマダ一割ニモ達シナイ、尤モドウ云フモノダカ、女ハ拳闘ガ好キデ、隨分拳闘ノ方

ハ多イ、併シマア所謂國技トナラントシテ居ル……ナツテ居ル野球、ソレニハ女ノ數ト云フモノハ全體ノ一割未滿、斯ウ云フ譯デス、ソレカラ甚ダ卑近ナ例デゴザイマスケレドモ、皆サンモ御經驗ニナル電車ノ中ノ男女ノ割合ヲ調ベテ見ルト、矢張りサウ云フ率デス、女教員ノ率ト同ジナノデス、大概三十五六人電車ニ乗ツテ居ルト、女ト云フモノハ十二三人、不思議ナモノデス、マアサウ云フ譯デアリマスカラ、職業戦線トカ、或ハ色々ナ思想ノ結果、女ガ出テ行ク爲ニ家庭ヲ害フト云フ虞ハ萬々ナイ、デサウ云フ事情デアリマスルノニ、他方ニ於テハ男女ノ數ト云フモノハ平衡ヲ得テ居ル、經濟上ノ關係モサウダ、職業戦線ノ状態モサウダ、サウシテ見レバ此ノ情勢ト云フモノハ暫ク續クモノト思ヒマス、是ハ非常ニ日本國民ニ取ツテ、日本社會ニ取ツテ仕合セナコトダ、ソレモ私ハ廣義ノ人口問題研究ノ對象ト思フ、其ノ外出生ト死亡トノ關係ノ如キハ、實ニ之ヲ眞面目ニ論議シテ居ル人ハ殆ド無イノデス、今日日本ノ此ノ出生率ガ三十、殆ド二十九幾ラデアリマスガ、ソレニ對シテ死亡率ガ十七幾ラ、最近ノ例デアリマス、サウ云フヤウニ非常ニ澤山生レテ非常ニ澤山死ヌノデアリマス、殊ニ東北六

縣ノ如キハ是ハ實ニ恐ルベキ状態ニア、サウ云フヤウナ關係ニ付テドレダケ有識ノ士ガ叫ンデ、ドレダケノ研究ヲシ、ドレダケノ對策ヲ立ツテ居ルト云フコトハ甚ダムヅカシイ、殆ドムヅカシイカラ手ヲ染メナイノデアリ、言ハナイノデアリマセウト思ヒマスケレドモ、不幸ニシテ殊ニサウ云フ憂慮スベキ問題ダト云フコトヲ眞劍ニ私ハ承ル機會ガ無イ、要スルニ此ノ人口問題研究所ノ内容ハ、先ヅ以テ人ノ能率ト云フ所カラ始ツテ、サウシテ人ノ數質ト量トノ増進、竝ニ人口ノ分配ト云フ所迄行ク譯デアリマス、ソレニハ獨自ノ研究モ要リマセウシ、綜合的研究モ要ルノデアリマス、ナカノ此ノ綜合的研究ト云フコトハムヅカシイ、是ハ矢張り軍部トカ或ハ文部トカ云フモノト密接ナル關係協調ヲ執ツテデナケレバ、綜合的研究ハ出來ナイ、然ルニ憂フベキコトハ、先ヅ以テ調査研究ノ對象トナルベキ體育研究所ノ状態ト下ウデアルカ、是ハ矢張り文部省ノ所管ト思ヒマスガ、體育研究所ガ生レテカラ何年ニナリマスカ、私ガ行ツテ見タ時デサヘモ今カラ十年モ前デス、實ニ何ント言ツテ宜イカ、紹介スルダニ憚リガアル、ソレカラ人口、殊ニ體位向上ト榮養トノ問題デアリマスガ、其

ノ榮養ヲ研究シテ居ル日本唯一、世界唯一ノ榮養研究所ノ爲體ハドウデアルカ、實ニ二十年以上モアノ憐レムベキ構内ニ立テ籠ツテ毀譽褒貶ヲ顧ミズ、研究ヲ續ケテ居ル所ノ佐伯博士其ノ人ニ對シテ日本國民ハ感謝ノ念ヲ捧ゲテ宜イト思フ、然ルニ其ノ榮養研究所ハ僅カニ最近ニナツテ小サナ榮養病院、名バカリノ榮養病院ト云フモノガ建ツタト云フダケデアリマス、此ノ東洋第一ト誇ツテ居ル所ノアスコニアル「カロリー・メーター」ト云フモノハ段々錆付イテ居ル、サウ云フ爲體デアル、ソレカラ是モ我々ガ平生推奨シテ措カナイ、世界ノ人モ非常ニ敬意ヲ捧ゲテ居ル所ノ勞働科學研究所、是モ三十年ニモナリマセウカ、暉峻君ガ非常ニ孤軍奮闘シテ居ル、偶、中國ノ一部倉敷カラ花ノ御江戸ヲ目指シテ出掛ケタ、私ハ最近暉峻君ニ會ヒマセウカラ其ノ功績ハ承レマセウガ、青山ノ元ノ師範學校ノ「ペンキ」ノ剝ゲ掛カッタ所ニ僅カニ勞働科學研究所ト云フ看板ヲ認ムルノミデアリマス、斯ウ云フコトハ體育研究所ト云ヒ、榮養研究所ト云ヒ、勞働科學研究所ト云ヒ、サウ云フ所ノ綜合的研究ヲ取ツテ、サウシテ現在ノ國民ノ質ト量、將來殊ニ事變後ニ於ケル所ノ國民ノ質ト量ト云フモノヲ考ヘナケレバナラヌ、處

ガドウモ大臣モ御感得ノ如クニ、所管ガ違フトナカノ手ヲ握ッテヤルコトハムヅカシイ、今ノヤウナ重要ナ研究所ハ力ヲ協セテ、ソコデ以テ綜合的研究ヲヤレト言ッテナカノヤレナイ、固ヨリ設備モ不十分デアリマスガ、今迄ノ傳統的弊害ト言ヒマスカ、ソレノ結果トシテ同ジ事ヤルノデモ別ニヤツテ居ル、是ハ實ニ憂フベキ現象デアリマスガ、ドウモ仕方ガナイ、併シナガラ

苟モ茲ニ人口問題研究所ト云フ大看板ヲ掲ゲラレタ以上ハ、サウ云フモノヲモ、打ッテ一丸トハ申シマセヌガ、然ルベキ協調連絡ヲ執ッテ行クト云フダケノ御決心ガナケレバナラス、又サウサセナケレバイカヌ、ソコ

デ第三問ハ、折角出來タ人口問題研究所ト云フモノノ内容ハ頗ル貧弱デアル、此ノ現下ノ重要問題ヲ解決スル、又事變後ノ重要問題ヲ解決スルニハ、モットノ擴張シナケレバナラス、ソレニハ矢張り、文部、陸軍

或ハ海軍諸大臣モ閣僚ノ一人トシテ厚生省ノ計畫ニ十分ナ御盡力ガナケレバイカヌ、以上述べタノガ私ノ昨晚來考ヘタ大體ノ希望デモアリ、又質疑デモアル、ドウカ三大

臣ニ於カレテモ、私ノ甚ダ熱心ノ餘リ露骨ニ申シタ點ハ宜シク御酌量アツテ、三大臣ノ一致アル御答ヲ得タイト斯ウ思フノデアリ

マス、又委員諸君ニ對シテモ甚ダ重複ナコトヲ申上ゲテ甚ダ恐縮ニ堪ヘマセヌ、併セテ其ノ點ノ御挨拶モ致シテ置キマス

○國務大臣(板垣征四郎君) 只今ノ御質問ノ第一點ニ付テ御答ヲ致シマス、第一ノ御質問ハ徵兵検査ノ實績ニ鑑ミテ、之ヲ更ニ十分ニ檢討ヲ加ヘテ、大イニ之ヲ活用スル

ノガ宜シイ、サウ云フ御意見ノヤウニ承リマシタ、是ハ全ク御意見ノ通りデアルト存ジマスルノデ、陸軍自體トシテモ勿論ノコトゴザイマスルシ、又文部厚生兩省ニ於キマシテモ十分連絡協調ヲ取りマシテ、更ニ檢討ヲ重ネ、之ヲ活用スルコトニ折角努力ヲ致シマシテ、御期待ニ副ヒタイト存

ズル次第デアリマス、簡單デアリマスルガ………  
○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今野村子爵カラ國防ト教育竝ニ一般國民ノ此ノ後ニ於ケル行動ニ付テノ御話デアリマシタガ、此ノ表ニ依ル或ハ徵兵猶豫者ノ状態、或ハ徵兵忌避者ノ状態、軍事ノ方面ノ問題ニ關シマスルガ、併シ教育トシテ又忽セニスベカラザル一ツノ大キナコトデアリマシテ、今回ノ兵役改正法ノ中ニモ、例ヘバ短期現

役兵ニ對スル廢止等、一般教育ニモ多大ノ關係ヲ持ッテ居ルコトデアリマス、只今御質

疑竝ニ御希望ノ要點ハ平素カラモ御懷抱ノ點モ能ク了承シテ居ルデアリマス、茲ニ丁度基礎ノ問題ニ觸レマシタノデ、少シク直接ノ問題トハ離レマスルガ、其ノ基礎ガ決リマセヌケレバ、此ノ問題ノ御希望ヲ達スルコトガ困難デアルト存ジマスルノデ、

少シク卑見ヲ申述べテ御答ノ第一ノ要點トシタイト思フデアリマス、教育ノ問題ニ付テ定メシ此處ニモ御議論ガアツタコトト存ジマスガ、一般教育、即チ文部省ノ管轄

シテ居リマス教育、軍隊ノ教育、是ガ別簡デアルカノ如ク一般ニ印象ヲ持ッテ居リマスルシ、當事者ノ間ニ於テモ左様ナ考ガ皆無トハ私ハ考ヘナイノデアリマス、又社會

教育ノ上ニ立チマシテ、家庭教育、是モ其中ニ一ツ織込マレル問題デアルト思ヒマ

スガ、我が國ノ國體カラ、又建軍ノ本義カラ、教育ノ本質カラ檢討致シマシテ、歐米

ニアル軍隊、教育、學校又社會トハ全然其ノ根本思想ヲ異ニシテ出發シナケレバナラ

ヌニ拘ラズ、今日迄ノ我が國ノ軍隊ノ教育、若シクハ兵役或ハ學校ノ制度、學校ノ教育、社會ノ問題ガ個々ニアリマスルコトハ、過

去七十年間歐米ノ風物ヲ入レマシタ結果デアツテ、已ムヲ得ナイト申シナガラ、今日既ニ再檢討ヲ要スベキ時代デアアルマイカ、

斯ウ考ヘマスルト、兵役ノ問題ト教育ノ問題ノ關係ニ於テ、私ハ兵役ガ一般教育ノ延長デアルト考ヘタノデアリマス、又我が國ノ建軍ノ本旨カラ考ヘマシテモ、國民ハ兵役ニ服スル間、殊ニ軍隊ニ在營シテ居ル間ノミガ軍人ニアラズシテ、生レタ時カラ死

ス迄ガ軍人ノ氣構ヘデナケレバナラスノデアリマス、此ノ軍隊ノ教育ハ即チ一般教育ノ延長ナリト考ヘネバナラスト思ッテ居リ

マス、斯ウ云フ風ニ實ハ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ考ヘテ參リマスルト、一般

教育ノ中ニ何處迄モ國防ニ必要ナル、殊ニ義勇奉公ニ奉ズル御趣旨ヲ如何ニシテ達スルカノ點ヲ今少シク深刻ニ、一般教育ノ中

ニ織込マナケレバナラスノデハナイカ、斯ウ織込マナケレバマスルト、高等教育ヲ受ケ

タ、即チ智能ノ段々發達シテ來タ者ガ兵役ヲ忌避スル、兵役ニ服スルコトガ無駄ナ仕

事、一ツノ何カ餘計ナ仕事ノヤウニ考ヘルト云フ現在ノ通念ハ打破シナケレバナラス

ノデアル、自ラ進ンデ兵役ニ、即チ軍隊教育ヲ受ケテ初メテ教育ガ完成スルモノデア

ル、軍隊教育ソレ自體教育ニ最モ重大ナモノデアルト斯ウ考ヘナケレバナラスノデア

リマス、同時ニ兵役ノ、是ハ軍ノ方ニ對スル御註文ニナリマスガ、在營ノ間ノ内部教

育ヲ受ケテ初メテ教育ガ完成スルモノデア

ル、軍隊教育ソレ自體教育ニ最モ重大ナモノデアルト斯ウ考ヘナケレバナラスノデア

リマス、同時ニ兵役ノ、是ハ軍ノ方ニ對スル御註文ニナリマスガ、在營ノ間ノ内部教

育ヲ受ケテ初メテ教育ガ完成スルモノデア

ル、軍隊教育ソレ自體教育ニ最モ重大ナモノデアルト斯ウ考ヘナケレバナラスノデア

リマス、同時ニ兵役ノ、是ハ軍ノ方ニ對スル御註文ニナリマスガ、在營ノ間ノ内部教

育ヲ受ケテ初メテ教育ガ完成スルモノデア

ル、軍隊教育ソレ自體教育ニ最モ重大ナモノデアルト斯ウ考ヘナケレバナラスノデア

育、若シクハ是等ヲ指導スル人ノ頭ガ、矢張り過去ノ「ヨーロッパ」ニ於ケル所ノ軍隊指揮官、若シクハ軍隊教官ト同一デアッテハナラナイ、何處迄モ皇運ヲ扶翼シ奉ルベキ基礎ニ立チマシタ一ツノ一般教育ヲ通シタ軍隊教育デアアル、斯ウ云フ觀念ヲ以テ一般ニ與ヘラレマシタ道德、其ノ他ノ教育、智能一切ノモノハ、總テ軍隊ニ依ッテ最後ノ死生ノ巷ニ之ヲ運用シテ、誤リナカラシムルダケノ基礎觀念ト云フモノヲ以テ茲ニ一貫シタモノガナケレバナラス、從ッテ兵營ヲ出マシテカラモ、在郷軍人トシテ兵役ニ服シタ者、兵役ニ服サナイ者デアッテモ、在郷ノ軍人タル資格ヲ以テ、茲ニ一貫シタ、家庭教育カラ始マツテ、モウ一步進ミマスルナラバ、生レル以前、胎教カラ出發シテ倒レル迄ノ間一貫シタ教育ガナケレバナラス、是ハ我が國體カラ、又屢々教育及軍隊ニ賜ハリマシタ御示シカラシテ、毫モ此處ニ乖離ノアル筈、所謂背反スル筈ハナイノデアアル、斯ウ考ヘルノデアリマス、然ルニ此ノ點ハ未ダ其處ニ到達シテ居ラス爲ニ、一般教育ハ一般教育トナリ、軍隊教育ハ軍隊教育トナル、軍隊教育ヲ受ケテ在郷ニ入りマスタラバ、又在郷トシテ殆下無關心デアルカノヤウデアッテ、今高等ノ知識智能ヲ得ルニ從ッテ

……小學校ガ一番眞劍デアアル、斯ウ云フ風評スラ起ルノデアリマス、小學校ノ兒童ガ一番眞劍デ、中學校ノ生徒ニ至ッテ稍、ソレガ完成サレマシタ時ニ崩レカカッテ、更ニ高等ノ學校ニ入ルニ從ッテサウ云フヤウナ根柢ガ崩レテ、家庭ニ入ッテシマウト云フコトヲ世間カラ批評セラレルコトハ、文部當局ト致シマシテ遺憾ニ思ッテ居ルノデアリマス、然ルニ是ガ軍隊ニ入りマスルト、全く別天地トナリマシテ、無論軍隊ノ教育ト云フモノハ死生ノ巷ニ行クノデアリマスカラ特別ノ教育ハ宜イノデアリマスケレドモ、其ノ根本ノ思想ニ於テ異ッテ居ル、デ私共過去ノ經驗ニ徴シマシテモ、兵營ノ中ニ居ル間ハ極メテ軍紀嚴肅ナル所ノ兵卒デアッテモ、一度除隊サレテ兵營ノ門ヲ出マスルト、十歩、百歩、一里ト云フ風ニ一日ノ間ニ距離ガ離レルニ從ッテ、自然ニ氣持ガ變ッテ來ルト云フヤウナ現象ヲ見聞致シマスコトハ國民教育ト軍隊教育ノ一貫ト云フ點カラ大イニ考慮スベキコトト思フノデアリマス故、一般教育ニ於テ、十分ニ教育ヲシタ者ガ、軍隊ニ於テ磨キ上ゲナケレバナラヌト云フ私ノ所見カラ基礎ノ問題トシテ大イニ考察ヲ煩ハス次第ナノデアリマス、斯様ナ點カラ生レテカラ死ス迄、一貫シタ國體ニ基ク屢次ノ御示ニ

副フヤウニシナケレバナラヌト存ズルノデアリマス、軍隊教育モ、一般教育モ、亦家庭教育モ一貫シタ此ノ思想ニ如何ニ之ヲ持ッテ行クベキカト考ヘマスルト、今日ハ歐米ニ依ッテ洗練セラレテ出來タ所ノ諸制度ヲ我が國ニ入レマシタガ、其ノ入レタ諸制度ハ再檢討ヲシテ根柢カラ速カニ改ムベキモノガアレバ、改メネバナラヌト存ジマス、教育ノ問題ニ於テモ此ノ點ハ同ジデアルト考ヘルノデアリマス、此ノ意味ニ於テ關係各省、即チ陸海軍ト、文部當局トガ此ノ點ヲ一ツ虚心坦懐ニ檢討ヲシ、教育トシテノ問題モ、國防ト云フ問題デモ再檢討ヲシ、更ニ關係ノ各省方面ト、例ヘバ體位向上ナラバ厚生省ト云フヤウナ方面ト一ツ聯繫ヲ致シテ、此ノ問題ヲ頭ニ置イテ行ク必要ガアリハセヌカ、併シナガラ斯クノ如キコトガ今日直チニ右カラ左ヘ行ハレルモノデナク、動イテ居ル此ノ活社會ニ於ケル教育、軍隊、國防、一切ノ問題デアリマスカラ、先ヅサウ云フ觀點ニ立ッテ、其ノ心持デ一ツ逐次諸制度ヲ改革シテ行ク必要ガアル、ソレヲ痛切ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、斯様ナ意味ニ於テ只今御示シニナリマシタ此ノ表ヲ、我が國ノ國勢調査ノ一ツトシテ、國家隆替ノ關スル原因トシテ考ヘマスタラバ、非常

ニ貴重ナル一ツノ資料トシマシテ、只今申上ゲマシタヤウナ意味ニ於テ、今後大イニ檢討致シテ見タイト實ハ考ヘテ居ル次第デアリマス、非常ニ基礎ニ互ッテ御心配ニナラレ、御指摘デアリマシタノデ、少シ抱懷シテ居リマス基礎ノ意見ヲ申述ベテ一言御答トシタ次第デアリマス、從ッテ第二ノ教育審議會ノ問題モ御示シノ如ク、斯様ナ點カラ申シマスレバ、其ノ人ガアレバ、其ノ人ヲ得テ十分茲ニ懇談スル必要ガアルト思ヒマスガ、只今教育審議會ニハ陸海軍カラ現役ノ當事者ガ二人ト、在郷ノ教育ニ關係シテ居リマス陸大將、陸海軍共一人ヅ、入ッテ居ラレマスガ、尙人員ノ都合、又審議會ノ方ノ今後ノ討議ノ問題、又陸海軍ノ方ノ都合等モ能ク圍リマシテ、此ノ點ハ十分考慮研究致シタイト考ヘマス、以上ヲ以テ御答ト致シマス

○國務大臣(廣瀨久忠著) 只今徴兵検査ノ實績ニ徴シテ十分ニ考ヘルヤウニト云フ御話デ、誠ニ御尤モニ存ジマス、殊ニ私共衛生體育ノ方面ニ關係致シテ居リマス者ト致シマシテハ、大イニ注意ヲ致サナケレバナラヌコトト思ヒマス、又御話ノヤウニ大體ノ數字ハ、日本デハ二百萬人生レテ約百萬人ガ男、百萬人ガ女、其ノ内六十萬人内外位ガ

徴兵検査迄行クト云フヤウナ實情ニナリマ

ス、御話ノ通りデアリマシテ、是ハ百萬

生レル男ガ、六十萬人シカ行カヌト云フ

ハ非常ニ残念デアリマス、是ハ乳幼児ノ死

亡率ガ非常ニ高イ、衛生状態其ノ他ニ於テ

不十分ナ點ガアル、又體力其ノ他ノ關係ニ

於テ色々不十分ナコトガアル、斯ウ云フコ

トデ、私共從來モ出來ルダケノコトハ致シ

テ居ツクノデアリマスガ、尙厚生省トシテ新

タニ使命ヲ帯ビテ生レタ譯デアリマスカラ、

出來ルダケ努力致シマシテ、立派ナ身體ノ

壯丁ヲ出來ルダケ餘計造ルト云フコトニ骨

折リタイト考ヘテ居リマス、尙此ノ點ニ付キ

マシテハ軍部並文部省等ト十分連絡ヲ取ツテ

リシタ状態ニ致シタイ、此ノ點ニ付テハ出

來ル限リ努力ヲ拂ヒタイト思ヒマス

○子爵野村益三君 厚生大臣ノ御答、少シ

マダ足りマセヌガ、事變後ノ対策ニ付テモ

研究所デ十分研究ヲ願ヒタイ、ソレヲ……

○政府委員(廣瀬久忠君) 私人言葉ガ足リ

マセヌデシタガ、事變後ノ問題、是ハ無論非

常ニ重要ナ問題ダト思ッテ居リマス、ソレ等

ノ點ニ付キマシテモ十分ニ研究致シタイト

思ッテ居リマス

○子爵野村益三君 周到ナ御答ヲ得テ私モ

満足致シマス、ドウゾ此ノ希望ガ如實ニ達

成實現セラレルヤウニ、成ルベク早く御盡

力ヲ願ヒタイ、勿論當局大臣ガ長ク御在職

ヲ希望シマスガ、サウ行カヌコトモナイデ

モアリマセヌ、大臣ガ迭ル爲ニ此ノ重要ナ

コトガ其ノ儘ニナツテシマフト云フコトニ

ナレバ非常ニ遺憾デアリマス、ドウゾ其ノ

點モ御考ニナツテ、此ノ上ノ協調協力ノ上、

實現ニ御盡力ニナラムコトヲ改メテ御願シ

テ、私ノ質疑ヲ終リマス

○男爵淺田良逸君 先般兵役法ノ改正ニ關

スル理由ヲ縷々ト主務大臣ヨリ御述べニナ

リ、極メテ適切デアルト承ツタノデアリマスガ、

ソレハ要スルニ單ニ今回ノ改正ニ限ルコト

ナク、兵役全體ヲ睨ンデ必要ナル御改正ハ

ヤラネバナラス、此ノ際ヤルベキ時期ニ到

達シテ居ルノデアアル、斯ウ云フコトモ亦半

面ニ窺ハレタノデアリマス、其ノ意味ニ於

キマシテ私ハ、事重大ト思ヒマスル二點ヲ

政府委員ニ確メタノデアリマスガ、マダ聊

カ疑義ヲ存スル點ガアリ、尙將來軍ノ方針ニ

モ影響スルコトデアリマスノデ、大臣ニ直接

御伺フシタイノデアリマス、第一點ハ現役

期間二年ヲ三年ト延長スルノ件デゴザイマ

ス、私ハ其ノ必要、利益ヲ此處デ縷説ハ致

シマセヌ、十分ニ是ハ大臣ニ於カレマシテ

モ御承知ニナツテ居ラレルコトデアリ、委員

各位モ十分ニ御承知ニナツテ居ラレルカラ

申サヌノデアリマス、而シテ現在ノ事實ハ

ドウカト云ヘバ、恐ラク現役二年ヲ濟マシ

テ郷土ニ歸ル者ハ稀ダ、大體服役延期ニナツ

テ居ルヤ否ヤ、此ノ點ヲ一ツ伺ヒタイノガ

第一點デゴザイマス、第二點ハ先般本議場

ニ於キマシテ、徴兵検査ノ、詰リ適齡ヲ二

年間早ク、十八歳ノ時ニ受験ヲシテ、サウ

シテ直チニ現役トシテ取ツテ、如何、此ノ質

問ニ對シテ大臣カラ體格ノ等位ガ下ルカラ

ト云フ理由ト、モウ一ツハ成年ニ一致シタ

ル所ノ現在ノ適齡ヲ適當ナリト考ヘタト云

フ此ノ二點ニ依ツテ、私ノ質問ニハ御同意ナ

サラナカツタノデアリマス、而シテ此ノ成

年ト一致スルト云フ問題ニ付キマシテハ、

其ノ後政府委員カラ適齡年限ヲ滿二十歳ト

定メタルコトト直接ノ關係ハナイモノト認

メマスト云フコトデアリマシタカラ、是ハ

全然消解シタコトト思フ、サウスルト、殘

ルハ體位低下ト云フ問題デゴザイマス、此

ノ問題ニ付キマシテハ特ニ本委員會ニ於テ

念入ニ質疑應答ヲ重ネタ所デアリマス、成

ル程私共モ體位ハ逐次低下シツ、アルト云

フコトヲ専門的ノ御意見ヲ伺ヒマシテ、了

承イタシタノデアリマス、併シナガラ十八

歳デハイケナイトシテモ、十九歳ニシタラ

如何カト云フコトニ付キマシテ問ヲ發シマ

シタケレドモ、其ノ問題ニ觸レテハ御答ガ

ナク、只單ニ二十歳ガ適當デアルト思フト

云フコトダケデアリマシタ、從來ノ研究ニ

照シ、又少シデモ新進氣鋭ノ者ヲ探ルト云フ趣旨カラ言ウテモ、結婚年齢ニ達シナイ中ニ兵役ヲ終テ、サウシテ人口増殖上最モ意氣盛ナル年ヲ取ツ者ヲ殘スト云フ理由カラ、私ハ最モ重要ナル問題トシテ研究サレネバナラスコトト思ヒマス、勿論大臣ハ尙十分研究ヲ重ネルコトニ致シタイト云フコトデアリマシタカラ、ソレデ蓋キテ居ルヤウデアリマスケレドモ、私ハ此ノ問題ニ觸レマシテハ即刻ニ解決ヲスルト云フコトハ必要デナイカト思ヒマスケレドモ、將來ニ於テ如何御取計ニナル御積リデアルカラ問ヒタイノガ第二點デアリマス、次ハ主トシテ文部大臣ニ對スルコトデゴザイマスガ、ソレハ徵集猶豫ニ關スル件デゴザイマス、今回ノ御改正ニ依リマシテ、中學ヲ卒業シ、高等學校ヲ卒業シ、大學ニ入りマシタ學生ハ猶豫期間ヲタツタ一年、若シ夫レ二年事故ガアツタナラバ、ソレハ中途カラ卒業ヲ止メテ、兵ニ入ラナケレバナラスト云フコトニ相成リ、餘リ其ノ詰メ方ガヒ下過ギヤシナイダラウカト云フコトハ、我々ノ同僚ニ於テモ大イニ申サレテ居ル點デゴザイマス、私共ハ左様ニ考ヘルノミナラズ、政府委員モ其ノコトハ、尤ト是認ヲセラレテ居リマス、明カニ二年位

ノ豫猶ハ何トカ附ケテ置キマセスト工合ノ惡イ場合モアラウト言ウテ、文部當局ニ於テ其ノ點ハ肯定サレテ居ルノデアリマス、ソコデ私ハ文部省ニ對シマシテ何トカ方法ガ附クマイモノカ、全般的ニモウ一年御延シ下サイトハ申シマセスケレドモ、特別ノ者ニ對シテ、親心トシテ何カ特別ノ御取計ヲヒガ出來マイモノデアるか、御研究ヲ煩シタイト言ウタケレドモ、本日ノ御答トシテハ研究ヲシテ見タケレドモ、色々ナ方ニ差響キヲ及シ、色々ナ法規ニモ影響ヲ及ス、是ハナカ／＼容易デハナイ、研究ヲシテ居ルケレドモ、研究ノ結果ハマダ申上ゲラレナイ、是カラ引續イテ研究ヲスルト云フ御答デゴザイマシタ、ソレハ一應諸カレルノデゴザイマス、ケレドモ、是ハ實驗ヲ重ネル問題ナラバ、ソレハ尤デアルト言ウテ、引下リマスケレドモ、既ニアル法規ト對照シテ研究スルトカ、既ニアツタ所ノ過去ノ事實ヲ、ソレヲ引照シテ、サウシテオヤリナサルト云フコトナラバ、私ハ是ハ何モ其ノ研究ノ結果出來ナイカラシテ、ソレハドウモ後延シヨスルト言フニハ及バナイト思ヒマス、サウ云フ問題デゴザイマシタナラバ、是ハ早ク研究ヲ完了致シマシテ、サウシテ何トカ特例ヲ御設ケニナ

ル方ガ宜イデヤナイカト云フコトヲ考ヘテ居ルノデ、之ニ對スル大臣ノ御考ハ如何デゴザイマスカ、此ノ問題ニ關聯致シマシテ、色々軍部ト文部省ト相談合ヒノ結果、出來ル限り現在就學中ナル學生ニ同情致サレマシテ、不使ヲ感ジナイヤウニナサツテ居ルトノ御精神ハ能ク分ルノデアリマスガ、唯取殘サレテ居リマス事項ガ一ツゴザイマス、ソレハ現ニ大學ノ豫科ニ居リマス者ト高等學校ニ居ル者デゴザイマス、現在大學豫科ニ入ッテ居リマシテモ、來年學部ニ移リマス者ニ對シテハ舊法ノ特典ヲ與ヘナイノデアアル、新法ニ依ッテ短縮スルコトニ相成ルノデゴザイマス、文部省ノ御説明ニ依リマスレバ、大學ノ豫科カラ學部ニ入ルノハ轉校デアアルカト、斯ウ言フノデアアル、轉校ト文部省ハ御覽ニナツテ居リマシテ、陸軍モ之ヲ轉校ト言ハレマス、轉校デアルトスレバ、ソレハ已ムヲ得ナイト云ヘマスケレドモ、現ニ陸軍ノ法規ニ於キマシテ、之ヲ轉校ト認メナイ法規ガ現存致シテ居ルノデゴザイマス、ソレハ即チ昭和二年ノ暫行規程ニ依リマシテ、現在モ活キテ居ル所ノ法規ニ依リマスレバ、同ジ大學ニ於キマシテ、豫科カラ大學ニ進ム者ハ、是ハ事由ガ續クモノトシ

テ、轉校スルモノトハ現ニ認メテ居ラナイ、認メテ居ラナイ事實ガ茲ニ存シテ居ルノニ、文部省モ陸軍省モ之ヲ反對ニ、ソレハ轉學デアアル、斯ウ云フ工合ニナルカラ、私ハ其處ニ矛盾ガアルコトヲ何人モ是認ラシナケレバナライト思フノデゴザイマス、而シテ現ニ高等學校ニ居リマス所ノ學生ト云フモノハ大學ニ入ル積リデ高等學校ニ居リマス、豫科ニ居リマス者ハ其ノ大學ノ學部ニ進ム積リデアアル、偶、其ノ年限ノモノニ、若シモ年ガ一年ノ爲ニ中途デ廢止シナケレバナラスト云フコトハ、中途デ其ノ大學ヲ止メテ兵ニ入ラナケレバナラスト云フノハ誠ニ氣ノ毒デヤナイカト言ヘバ、ソレハ何人モ氣ノ毒ダト申スノデアリマス、既ニ其ノ積リデヤツテ來タノニ、ソレハ可哀サウダ、斯ウ云フコトヲ申ス、可哀サウデアラナラバ、親心ニナツテ其ノ途ヲ開イテヤツテモ差支ナイデヤアリマセヌカ、ソレ位ノコトハ御讓リ下サツテモ宜シウゴザイマセウト云フコトヲ重ネ／＼申上ゲテ、今問答中ナノデゴザイマス、ドウカ私ハ兩大臣ニ於テ御相談合ヒ下サイマシテ、斯様ナ問題ハ政治的解決ニ依リマシテ、左様ニ政府トシテ固執ナサイマセヌデモ、是ハ私共第三者トシテ考ヘマシタ時ニ、私共ノ同僚ナド

ニ話ヲスレバ、異口同音ニ、高等學校ニ入ッテ居ル者ヲ、來年行ク者ヲ、既ニ入ッテ居ッテ、來年大學ニ移ル者ヲ、ソレヲ中途デ杜絶セシムルト云フコトハ、ソレハドウモヒドイ、其ノ位ノコトハ出來サウナモノダ、斯ウ云フ風ニ申シテ居ルノデゴザイマス、何卒兩大臣ノ間デ御話合ヒ下サイマシテ、此ノ者ニ對シマシテハ、特別ナル御考慮ヲ御拂ヒ下サルト云フコトガ相成ラヌモノデアルカ、何トカシテサウ云フ御取計ヲ御願ヒシタイ、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ御尋

フ申上ゲタ次第デアリマス  
○國務大臣(板垣征四郎君) 只今ノ淺田男爵ノ御質問ノ第一デアリマスガ、二年ノ兵役ヲ三年ニスル考ハナイカドウカ、之ニ對シマシテハ矢張り只今ノ情勢ニ於キマシテハ、二年兵役ヲ適當トスルト云フ考デゴザイマス、更ニ又情勢ガ變化致シマスレバ別デアリマスガ、只今ノ情勢ニ於テハ左様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、次ノ徵兵適齡ノ問題デアリマスガ、只今ノ二十歳ヲ十八歳トスルト云フコトハドウモ適當デナイヤウニ考ヘマスノデ、是ハ將來ノ問題トシテ研究ヲ致スコトニ本會議ニ於テハ、御答ヲ致シタ次第デアリマスガ、更ニ又之ヲ短縮スルニ致シマシテモ、十八歳ガ宜イカ、或ハ

十九歳ガ宜イカ、相當重大ナ問題ト考ヘマスルノデ、將來此ノ點モ十分研究ヲ致シタイト考ヘル次第デアリマス

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今淺田男爵カラ御希望ノヤウデモアリマシタシ、或ハ御質疑ノヤウデモアリマシタガ、大學ノ豫科、又高等學校ノ學生ノ問題デアリマスルガ、仰セノ通り勉學ノ便否、其ノ人ノ環境ニ應ジテハ、又理窟カラ考ヘマシテモ、御話ノヤウナ點ハ一應尤ト聞エルコトデモアリマスルシ、私共モサウ云フコトデ本人ノ便宜上已ムヲ得ズンバ左様ニアリタイト云フ、文部當局トシテノ、私ノ考トシテモナイデハナイノデアリマスガ、色々此ノ立法ニ當ッテ軍部方面ト協議ラシタ結果、此ノ立法ヲ以テ先ヅ適當ナリト云フ結論ニ到達シタノデアリマスルノデ、此ノ立法ニ至ツタ次第デアリマスルガ、併シナガラ尙十分ニ當事者ト考究モ致シテ見マシテ、サウ云フヤウナ假ニ理由デモ發見致シマスレバ、又考ヘテモ見マスガ、只今ノ所ハ、左様ナコトノ檢討ヲ致シマシタ後、是デ可ナリト云フヤウナ協定ニナッテ居ルモノデアリマスルカラ、此ノ點ハ一應ドウゾ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙御意見ノ點ハ誠ニ文部當局トシテハ何トカ考

ヘテ見タイト云フ點モアリマスノデ、十分ニ考究モ致シテ見タイト思ヒマス、此ノ邊デドウゾ御諒承ヲ願ヒマス

○委員長(伯爵溝口直亮君) 他ニ御質疑モゴザイマセヌデスカ……ソレデハ質疑ハ是デ終了シタモノト認メテ宜シウゴザイマスカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵溝口直亮君) ソレデハ暫ク休憩致シマス  
午後二時五十三分休憩  
午後三時四十九分開會

○委員長(伯爵溝口直亮君) 只今ヨリ委員會ヲ再開致シマス、本日ハ此ノ程度ニ於キマシテ散會致シ、明日午前十時ヨリ更ニ本委員會ヲ繼續致シマス  
午後三時五十分散會  
出席者左ノ如シ

委員長	伯爵溝口 直亮君
副委員長	織田 萬君
委員	公爵鷹司 信輔君
	侯爵徳川 義親君
	子爵野村 益三君
	子爵谷 儀一君
	子爵伊東二郎丸君
	三井清一郎君

男爵淺田 良逸君  
男爵松平外與麿君  
男爵渡邊 修二君  
小野寺長治郎君  
松本 學君  
石川 三郎君  
辻 兵吉君  
大西虎之介君

國務大臣  
文部大臣 男爵荒木 貞夫君  
陸軍大臣 板垣征四郎君  
厚生大臣 廣瀬 久忠君

政府委員  
陸軍政務次官 西村 茂生君  
陸軍少將 中村 明人君  
海軍政務次官 松田竹千代君  
海軍大佐 岡 敬純君

文部政務次官 小柳 牧衛君  
文部省專門 學務局長 男爵山川 建君  
文部省普通學務局長 藤野 惠君  
厚生政務次官 津崎 尙武君  
厚生參與官 綾部健太郎君  
厚生省衛生局長 林 信夫君  
厚生省豫防局長 高野 六郎君  
厚生省社會局長 新居善太郎君

說明員  
陸軍軍醫大佐 鎌田 調君

昭和十四年二月四日印刷

昭和十四年二月五日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局